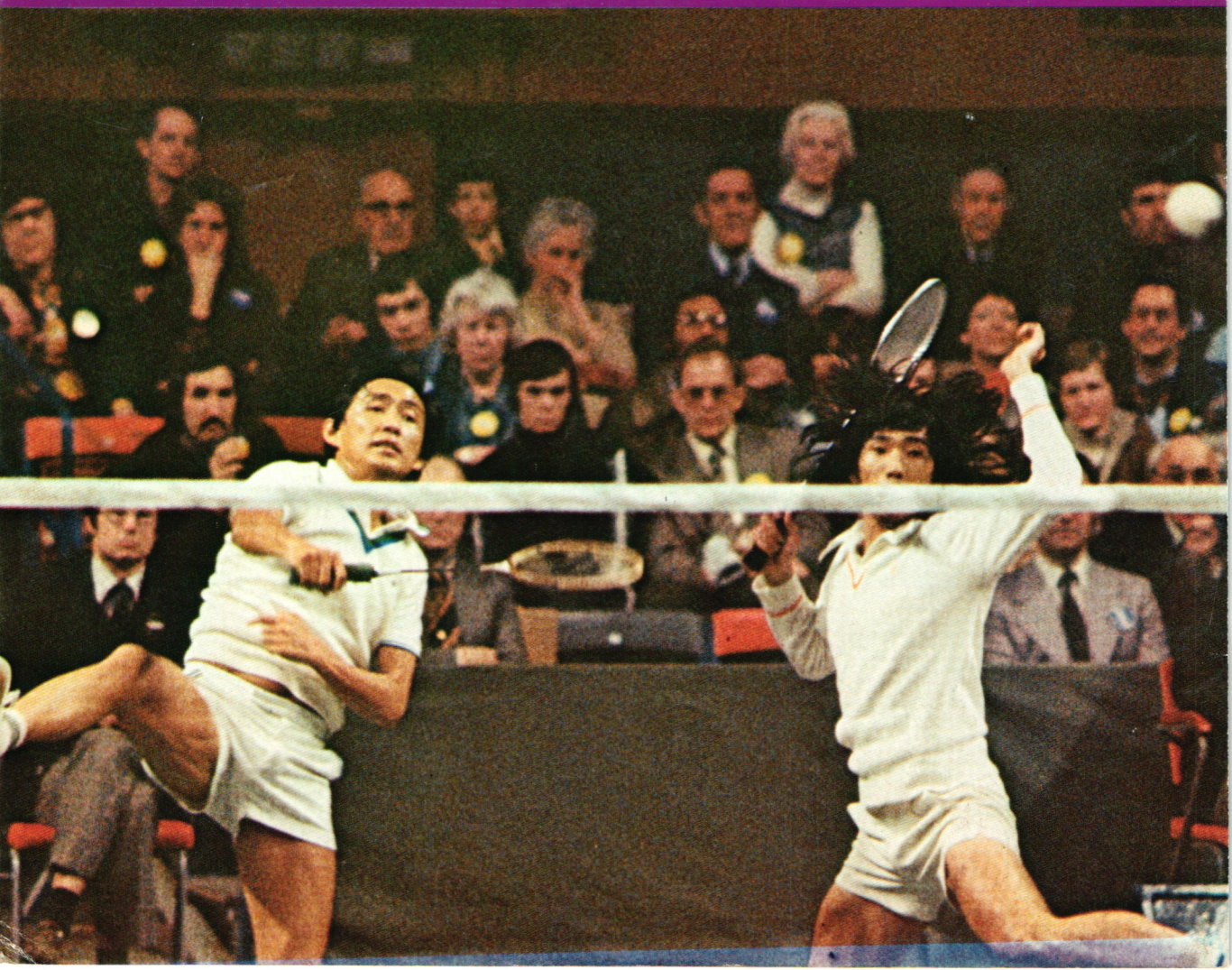
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年5月15日発行（毎月1回15日発行通巻第103号）

バドミントン界

5

日本バドミントン協会　The Badminton World No.103　1978

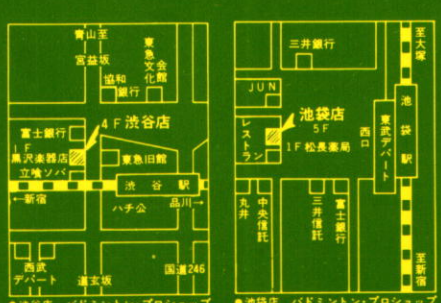


ラケットおニュー!!
意欲も新品。



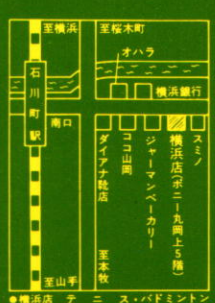
●年中無休
●営業時間　渋谷・池袋店
AM10：00～PM7：00
横浜店
AM10：00～PM8：00

ラケットショップ元町

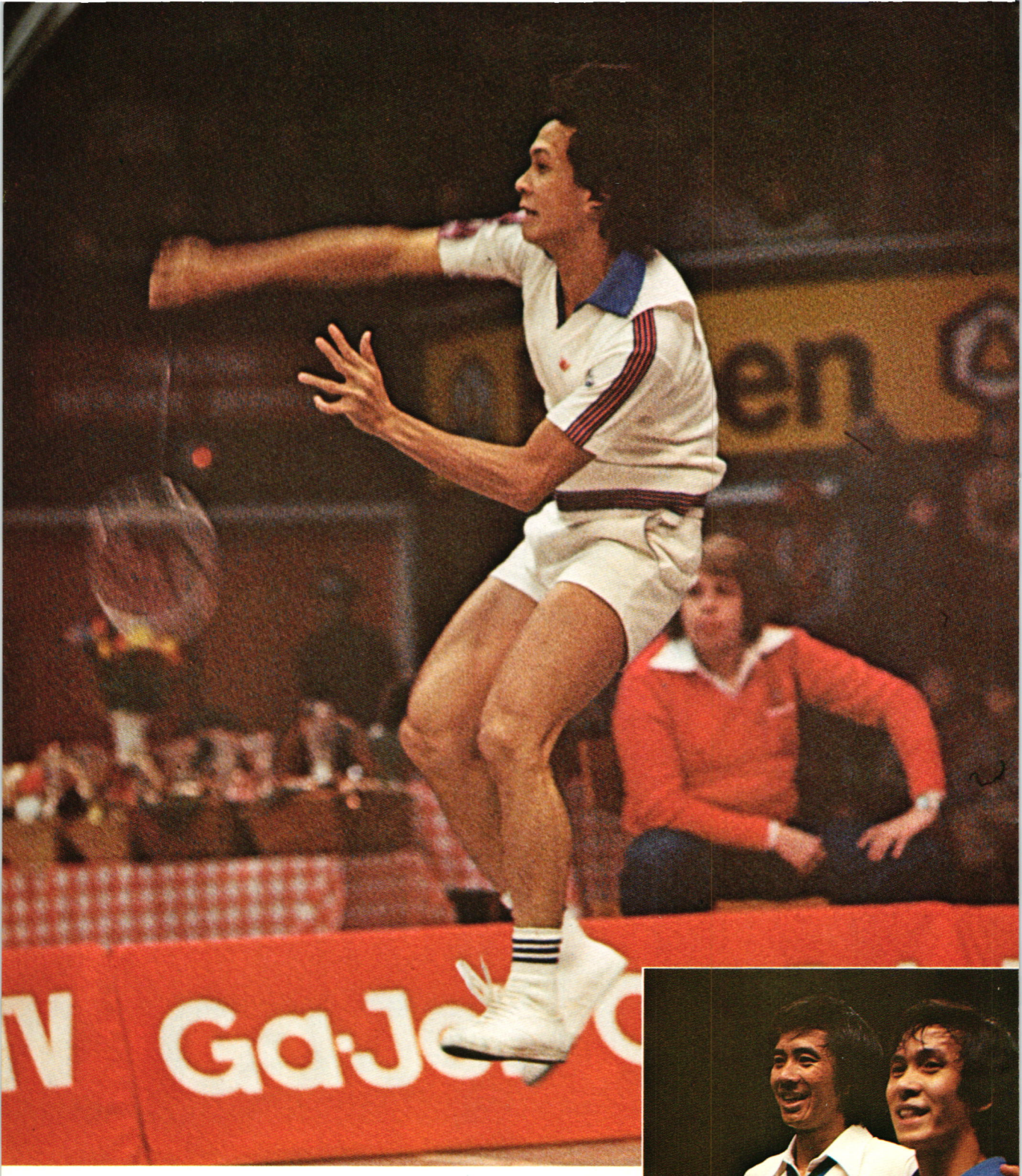


●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390

●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●横浜店　テニス・バドミントン
☎045-651-2020

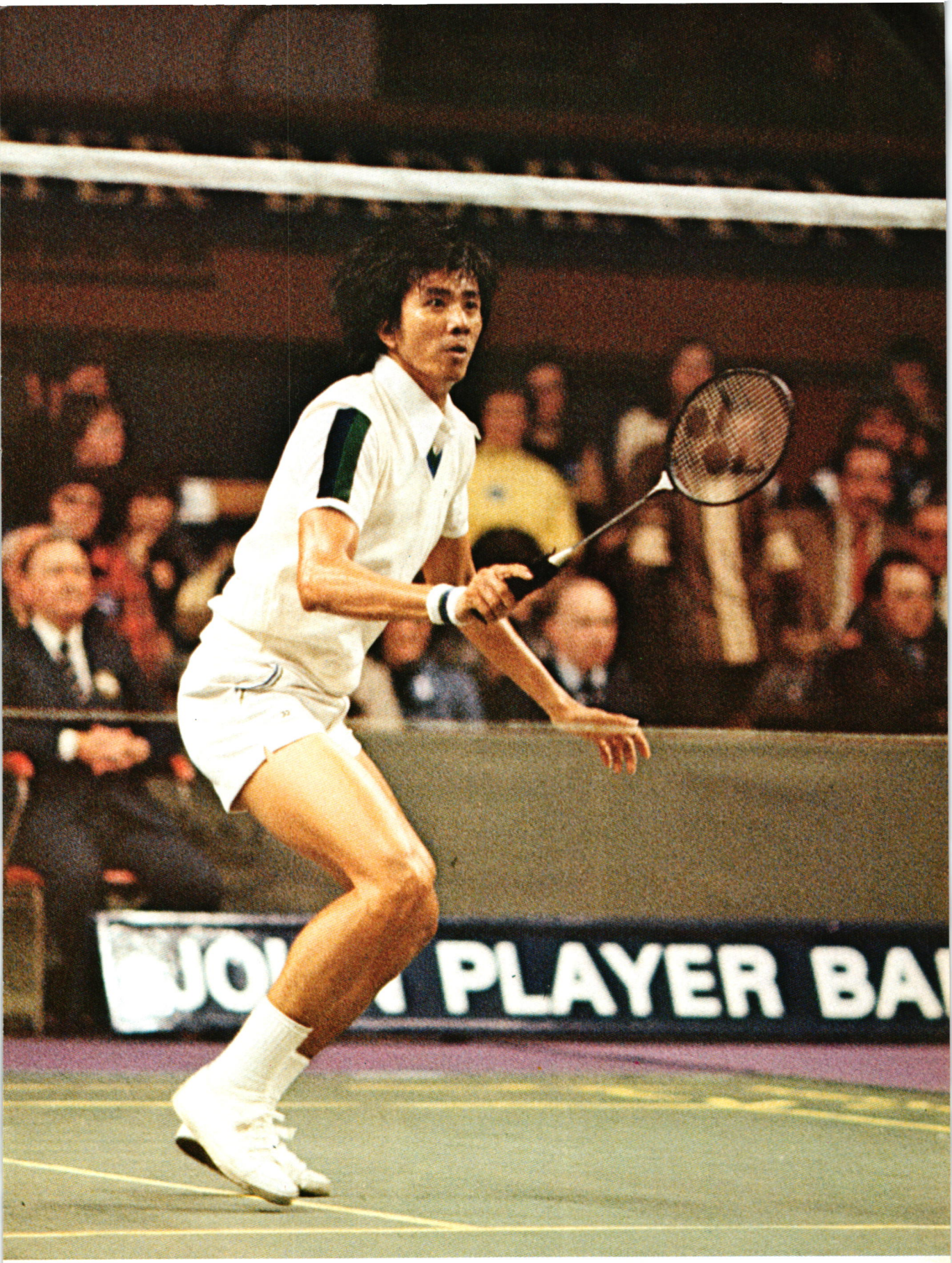


ALL-ENGLAND GENTLEMEN'S SINGLES

リム・スイ・キン　初の栄冠

MR. LIEM SWIE KING

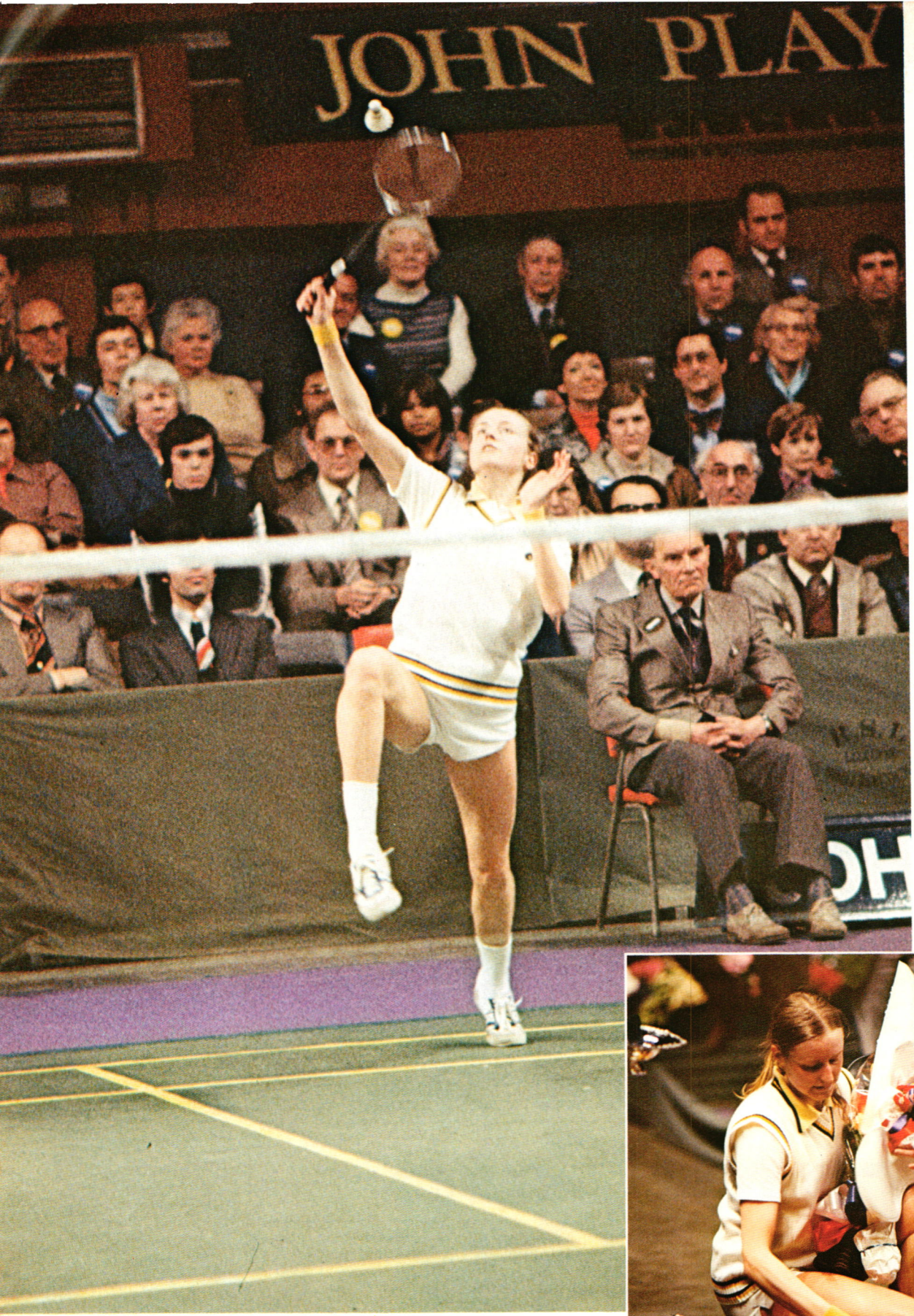




ルディ・ハルトノ　みごとに復活　MR. RUDY HARTONO

ALL-ENGLAND GENTLEMEN'S SINGLES

ギルクス〝女の意地〟みせる



ALL-ENGLAND LADIES SINGLES

MRS. GILLIAN GILKS



竹の特性を生かした話題のバンブーラケット。ハイ・トーマス

No. B45 ハイ・トーマス ¥4,800　★青単線張手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付

竹製なればこそ発揮できる威力がバドミントンのプレーに適した材質の特性であることに着目して、その研究成果を集積した、バンブーラケット〈ハイ・トーマス〉。竹と木の合板による強靭なフレームと細くて長いテーパーシャフトによる抜群の反撥力と反撥音。薄いフレームに竹独特の強さとしなりがシャープな振りと動きを可能にします。ガット張りによるラケットの変形が起らなく、ソフトグリップが手に良くなじみます。

日本バドミントン協会推奨

球ばなれの早い極限の0.75㎜。新発売。

HY-SHEEP Super ハイ・シープ・スーパー



超強力（ナイロン）糸の使用により、インパクト時の摩擦による、ガット切れは解消。細いゲージ（0.75㎜）が球ばなれを早くし、また風による抵抗が少ない為、シャープな振りを生む。打った時の確かな手応えは長期間の使用にもゆるみがなく、常に鋭い反撥力。

温度・湿気などに変質しない優れた耐久性は限界を知らない技術の結晶。張り上げがスムーズで色合いも他に類のない、ラケットとのトータルカラー。常に追求を緩めないゴーセンの技術陣が作りあげた、まさに超スーパー級のガットです。

高級トーナメント用〈オレンジ〉¥500

株式会社ゴーセン

■本社●〒540 大阪市東区豊後町4☎(06)942-5816 代　■東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2☎(03)862-6576 代　■福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8☎(092)712-5247 代　■北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22☎(0762)47-0200 代

バドミントン界 5

❻
リム・スイ・キン初優勝
ハルトノも健在ぶり示す

❼
徳田・高田組が大金星
日本女子が活躍、上位独占

❽
ギルクス、2回目の制覇
惜しくも準優勝、近藤

❾
インドネシア、圧倒的
飯野・土田組ベスト4へあと一歩

❿
伝説を秘めた偉大な英雄
ルディ・ハルトノ

⓬
王国を背負う新しきエース
リム・スイ・キン

⓭
19歳の国内チャンピオン
モルテン・フロスト・ハンセン

⓮
孤独な女王ギリアン
ギリアン・ギルクス

⓯
〝生きたクリアー〟が魅力
リーン・コーペン

⓰
天性のセンスはピカ一
ジェスパー・ヘレディ

⓲
全英選手権ア・ラ・カルト
史上最強はハッシュマン夫人

㉖
観戦記・全英バドミントン視察団に参加して
渡辺武司／橋本敏邦

㉜
小島一平・連載
まず、確固たる目標を!!

㉞
栂野尾悦子・連載
大きな岐路　相沢さんがやめる？

㉟
夏に向って　第6回高等学校選抜競技会
原口、2年連続の偉業へ布石

㊹
昭和53年度大会カレンダー
編集室から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹（使用カメラ・レンズ＝アサヒペンタックスMX SMC−P−M）、樋口哲也／現像処理＝杉野一樹、スタジオ・アクト、樋口哲也 ◇今月の表紙＝第68回全英選手権大会男子ダブルス決勝戦のもよう

第68回 全英 バドミントン 選手権大会

リム・スイ・キン初優勝!!

男子単　ハルトノも健在ぶり示す



気力充実して会心の試合をみせたリム・スイ・キン

今年で68回目という伝統を誇る全英バドミントン選手権大会が、イギリス・ウェンブレーのウェンブレー・アリーナで、3月15日から18日まで、多くの観客を集め、盛大に開催された。

大会の話題を独占したのは、何といっても2年ぶりにカムバックした男子シングルスのルディ・ハルトノ（インドネシア）。過去8回の優勝に敬意を表したイギリス協会は、第1シードに抜擢してハルトノを迎えた。

期待に応えてハルトノは、並いる強敵を降して決勝へ勝ち進んだが、結果は、後進のリム・スイ・キンに王座を譲る格好で準優勝にとどまった。

昨年の覇者フレミング・デルフス（デンマーク）は、レシーブに回りすぎた感が強く、ハルトノの堅城を崩すことができず、ベスト4に終った。

男子ダブルスもシングルス同様、インドネシアが圧倒的な強さを発揮。チュン・チュン、ワジュディ組と、クリスチャン、チャンドラ組が、テクニシャン揃いのヨーロッパ・ペアを難なく破って例年通り同国同士で覇を競い合った。

優勝はチュン・チュン、ワジュディ組で、通算4度目。

日本の飯野、土田組も奮戦してベスト8入りを果たし、準々決勝ではクリスチャン、チャンドラ組を相手に遜色ない試合ぶりを見せた。

女子は、シングルス、ダブルスともに日本選手が大活躍。

シングルスの栄冠は、イギリスのギリアン・ギルクスが長身からの攻撃にモノをいわせて奪回し、2度目の優勝を飾った。

日本選手は近藤が準決勝。湯木がベスト4。ベスト8には徳田、高田も入って層の厚さを示した。

ダブルスは、最終日のメイン・コートを、徳田・高田組、植野・米倉組の日本勢が占め、決勝を争い、徳田・高田組が国際大会東京戦の雪辱を果たして初優勝に輝いた。

日本女子のダブルス制覇は、71年度の高木（現姓中山）・湯木組に始ってこれで6回目。

混合ダブルスは、イギリスのマイク・トレジェット、ノラ・ペリー組が地元の声援を浴びて調子の波に乗り、スティーン・スコブガード、リーン・コーペン組（デンマーク）を寄せつけず、初の栄冠を獲得した。

▽男子シングルス1回戦

飯野 2（15—10, 6—15, 1）アンガース（S） 18—16

銭谷 2（18—13, 5—15, 0）バーグ（D） 15—5

土田 2（15—1, 7—15, 0）バレン（N） 15—7

栂野尾 2（15—9, 8—15, 0）ブラグト（H） 15—8

▽同2回戦

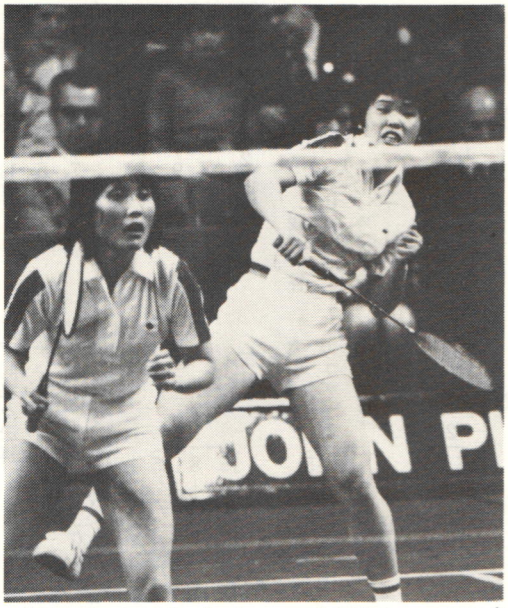
プリ（D） 2（15—5, 4—15, 0）池田 15—4

ニールセン 2（9—15, 15—9, 1）飯野（D） 15—11

68th ALL-ENGLAND BADMINTON CHAMPIONSHIPS

女子複 日本女子が活躍、上位独占

徳田・高田組が大金星



〝日本チャンピオン〟イコール〝全英チャンピオン〟

▽同2回戦

米倉	2	11—2	11—3	0	フィリントン(E)
徳田	2	11—2	12—10	0	スミラ(IN)
湯木	2	11—3	11—4	0	ルセン(D)
高田	2	11—9	11—6	0	リダー(H)
近藤	2	11—1	11—1	0	ンセン(D)
植野	2	11—3	11—3	0	ワイタッカー(E)
ギルクス(E)	2	11—6	11—5	0	米倉
徳田	2	11—1	11—3	0	ルセン(E)
湯木	2	11—4	11—2	0	ズィープラー(G)

▽同3回戦

高田	2	11—8	11—3	0	トロム(D)
近藤	2	11—4	11—5	1	ブリッジ(E)
植野	2	11—8	11—2	0	クラークソン(C)
徳田	2	11—7	11—0	0	ギルクス(E)
湯木	2	11—3	11—3	0	高田
近藤	2	11—2	11—7	1	コムビューセ(H)
クラークソン(D)	2	11—8	11—6	1	ギルクス
ギルクス	2	11—3	11—5	1	湯木

▽同準々決勝

ボルグス	2	11—8	11—3	0	トロム(D)
ブリッジ(E)	1	4	5—11	8—11	2	近藤
植野	0	8	2—11	0	クラークソン(C)
徳田	0	7	0—11	0	ギルクス(E)
高田	0	3	3—11	0	湯木
コムビューセ(H)	1	2	7—11	1	近藤
コーペンソン(D)	1	8	11—6	11—8	2	クラーク
湯木	1	3	5—11	11—12	2	ギルクス

▽同準決勝

デルフス(D)	2	15—11	15—8	5—15	1	プラカシュ(I)
ハルトノ(IN)	2	15—7	15—8	0	ハンセン(D)	M・F・リム・スイ・キン
リム・スイ・キン	2	15—13	15—11	0	スミラット	ハルトノ
ハルトノ	2	15—12	15—7	0	デルフス	リム・スイ・キン
湯木	2	11—8	11—4	0	トン(E)	キルビン
高田	2	11—2	11—8	0	ート(SA)	ウォルト
近藤	2	11—3	11—2	0	ート(S)	スチュア

▽女子シングルス1回戦

▽同決勝

リム・スイ・キン	2	15—3	15—10	0	ハルトノ	
スミラット(IN)	2	15—4	15—8	6—15	1	キールストロム(S)
プラカシュ(I)	2	18—14	15—5	0	土田	
錢谷	2	15—7	15—11	0	ハリー(A)	
土田	2	15—8	15—2	0	ウォールワーク(E)	
スミラット(IN)	2	15—3	15—1	0	錢谷	

▽同準々決勝

▽同3回戦

第68回 全英 バドミントン 選手権大会

ギルクス、2回目の制覇

女子単　惜しくも準優勝、近藤

▽同決勝
近藤 2 (11-11-5-11-11-7-6) 1 クラーク（ソン）
ギルクス 2 (11-11-1-11-9) 0 近藤

▽男子ダブルス2回戦
チュンチ ユン・ワジュディ 2 (15-15-2-15-15-2) 0 銭谷 アンガーズ（S）
エディ ジョリー 2 (15-15-3-15-11) 0 池田 栂野尾（E）
飯野 土田 2 (15-15-3-15-1) 0 ハンセン・Kニールセン（D）
飯野 土田 2 (15-15-4-15-4) 0 サットン タルボット（E）

▽同3回戦
飯野 土田 2 (15-15-4-15-4) 0 サットン タルボット（E）

▽同準々決勝
チュンチ ユン・ワジュディ 2 (15-15-4-15-4) 0 エディ ジョリー
フローマン・キー 2 (15-8-15-9-15-7) 1 プリ ヘレディルストロム（S）
デルフス スコブガード（D） 2 (15-15-5-11-15-5) 0 スティーブンス トレジェット（E）
チャンド ラ・クリスチャン 2 (15-15-10-4-15) 0 飯野 土田（IN）

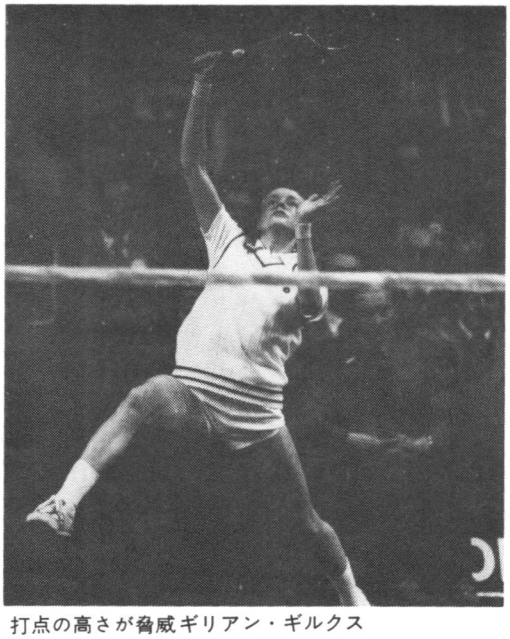
▽同準決勝
チュンチ ユン・ワジュディ 2 (15-15-5-13-15) 0 フローマン・キー ルストロム
チャンド ラ・クリスチャン 2 (15-15-5-7-15) 0 デルフス スコブガード

▽同決勝
チュンチ ユン・ワジュディ 2 (15-15-12-8-15) 0 チャンド ラ・クリスチャン

▽女子ダブルス1回戦
徳田 高田 2 (15-15-1-15-1) 0 ピルガード・クリステンセン（D）
湯木 近藤 2 (15-15-2-15-1) 0 マーチン スマイルス（E）
植野 米倉 2 (15-15-2-15-4) 0 マイヤー ニールセン（D）

▽同2回戦
徳田 高田 2 (15-15-5-15-9) 0 フロック ハート ハミルトン
サットン ウェブスター（E） 2 (15-15-10-13-15) 0 湯木 近藤（E）

▽同準々決勝
植野 米倉 2 (15-15-5-15-10) 0 ブリッジ パティック（E）
徳田 高田 2 (17-15-8-15-15) 0 ギルクス フィリントン（E）
ウイジャ スタティ 2 (15-17-16-15-4) 0 サットン ウェブスター
植野 米倉 2 (15-12-15-7-15-4) 1 ボルグストロム Pニールセン（D）（IN）マスリ


打点の高さが脅威ギリアン・ギルクス

68th ALL-ENGLAND BADMINTON CHAMPIONSHIPS

男子複　飯野・土田組ベスト4へあと一歩

インドネシア、圧倒的

▽同決勝

バックハウス・ヤングバーグ(C)　2　15—10　17—15　1　15—11　スタットベリー(E)

▽同準決勝

徳田　2　15—14　15—14　0　ウィジャスタティ
高田　　マスリ

植野　2　15—11　15—10　1　バックハウス・ヤングバーグ
米倉　　15—3

▽同決勝

徳田　2　18—16　15—6　0　植野
高田　　米倉

▽混合ダブルス準決勝

スコブガード　2　15—4　15—8　0　リダー
コーペン(D)　　リダー(H)

トレジェット・ペリー(E)　2　7—15　15—11　1　プリ(D)
　15—9　ギルクス(E)

▽同決勝

トレジェット　2　15—7　15—4　0　スコブガード
ペリー　　コーペン

（注）国名略称　A＝オーストラリア、C＝カナダ、D＝デンマーク、G＝西ドイツ、I＝インド、IN＝インドネシア、H＝オランダ、N＝ニュージーランド、S＝スウェーデン、E＝イギリス。

SPORTS GLOVES®

¥980（送料¥100）

バドミントンにグローブを！

素手の握りの感覚をより強調した上、人造セーム皮が手の平の汗を吸収します。日・英・米の特許製品。石けん、中性洗剤で洗たくが出来ます。右手用、左手用があり、2枚入りパッケージです。Ⓛサイズ、Ⓢサイズ、右手、左手用と指定の上、「バドミントン界」と記入して、郵便振替 横浜 6958 に御送金下さい。すぐ発送します。

松永商品開発研究室

〒248 鎌倉市佐助一の8の18

ご存知、近代バドミントンの〝王者〟。全英選手権に7連勝、8度の優勝は、もちろん前人未踏の大記録。

76年度の優勝を最後に、プロ転向をうわさされ競技生活から遠ざかっていたが、今年になって勇躍復帰、依然その力の衰えぬところを見せた。

1年のブランクにもかかわらず、堂々と第1シードの栄に浴したのも、イギリス協会の、いや全バドミントン関係者の敬意と期待の表われか。当然のように今大会最大の焦点はこの〝カムバックしたハルトノ〟に集中したのはいうまでもない。

僚友インドネシアの全選手が出場したデンマーク・オープンには見向きもせず、全英一本に絞った演出効果は心憎いばかり。

大会初日、男子シングルス1回戦が淡々と進行する中、ざわめきとともに大きな拍手が沸き起こり〝真打ち〟ハルトノが静かに登場。観衆の目は、他コートの試合を無視して、ウォーミングアップするハルトノの一挙手一投足に注がれる。

カムバック第1戦の対戦相手となったのは地元D・エディ。ハルトノは慎重に四隅へ揺さぶる彼本来のオーソドックスなプレーで15—3、15—3と完勝。

2回戦もイギリスのB・H・ホワイトを15—9、15—1と破り、いよいよ現在の力を推し計るには格好の、スウェーデンの古豪S・ジョンソンとの対戦となった。

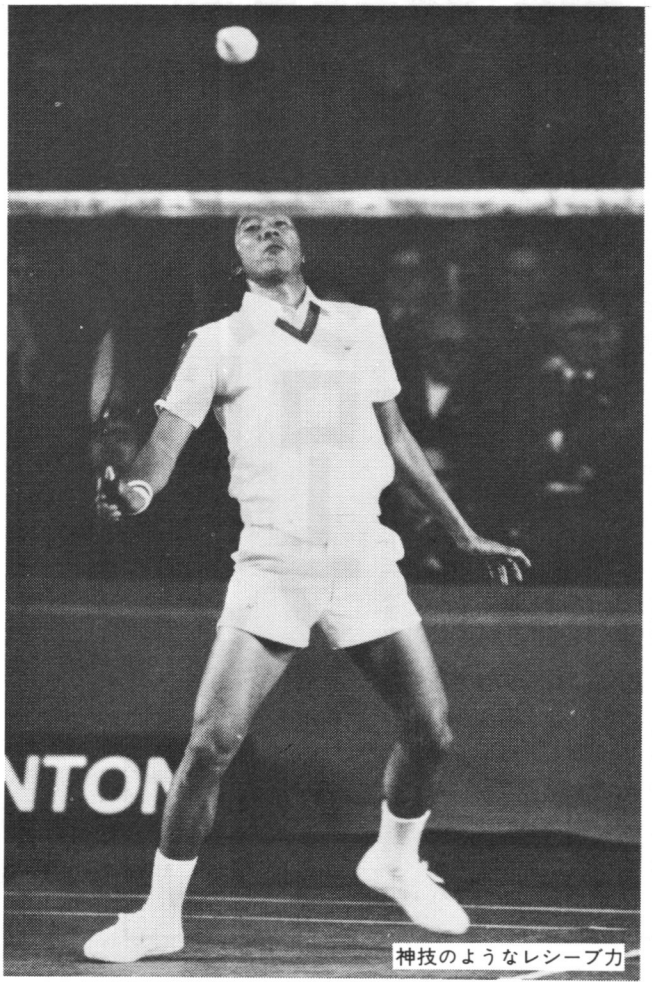
そしてこの試合が、改めてハルトノの底力を見直さずにはいられない、大会屈指の名勝負になったのである。

対するジョンソンは、1回戦のJ・ウィルソン（ニュージーランド）を15—1、15—4、2回戦日本の栂野尾を15—3、15—4と大差で降し、今まさに円熟期を迎え、T・キールストロームとともに肩を並べるスウェーデンの双璧である。

まずハルトノが順調に先行して、15—9で第1ゲームを奪うと、ジョンソンも長年の蓄積されたエネルギーを爆発させて反撃。フォアサイドからのクロススマッシュ、バックサイドからの逆クロススマッシュが意表を突いてよく決まり、ハルトノをたじたじとさせる。やや勝負を急いだ感だけハルトノの返球が甘く浅くなり、ジョンソンは待ってましたとばかり見逃がさず、15—10となってファイナル・ゲームへもつれ込んだ。

5分間の休憩で落ち着きを取り戻したハルトノは、冷静な試合運びで再び主導権を握り、波乱のないゲーム展開と思われた。

しかし先に13ポイントを取ったハルトノに、あと2本がどうしても取れない。もがき苦しむハルトノと、じりじり追い上げるジョンソン。スマッシュして


神技のようなレシーブ力

世界の強豪たち

伝説を秘めた偉大な英雄

ルディ・ハルトノ

攻め立てるジョンソンのリズムが完全に勢いづいて、ついにセッティング。

セッティングになってもジョンソンの勢いは止まらず、とうとう4―1となってマッチポイント。

もう一歩も後へ引けないハルトノ。ムードは圧倒的にジョンソンのもの。そしてそれに輪をかけるように、ここでハルトノの手持ちのラケットのガットが、全部切れてしまうアクシデント。

「さあ、どうするか」。満場かたずを飲んで見守る中、余裕を見せて自分のラケットを差し出すジョンソン。

全英の審判は厳しい。ラケット交換の猶予を与えてくれないことを知っているハルトノは、ジョンソンのラケットを掴んでレシーブの体勢を取る。素振りもせず、一度の試打もせず、静かな表情で構えるハルトノ。

しかもラケットは、ハルトノが使用しているウッドとは異なるスチール・ラケットなのだ。

だのになぜこうも落ち着いていられるのだろうか。ラケットの具合を気にかける様子も見せないで。これは敗北を悟った勇者の姿なのか。

しかしそれは、常人には及びもつかない恐しいまでの自信と、強運を身につけた男だけが知る〝無我の境地〟かも知れない。

ジョンソンの凡ミスでマッチポイントを逃れたハルトノは、気負いもはやりもない本来のバドミントンに徹して、じわじわとジョンソンを縛り上げていく。サービス権が移行しても、〝続けてミスをしない〟ハルトノ。

ジョンソン最後のクリアーがバックバウンダリーラインを割ると同時に、狂喜して跳び上がるハルトノ。

最後に彼が手にしていたラケットは、途中自軍ベンチから届けられた、これまた異なった三種類目のラケットだった。

ジョンソンにしてみれば実に信じられない結果となって、ハルトノのベスト8入りが決定した。

騒然とする観衆の誰しもが、総毛立つようなハルトノの精神力を垣間見て、一瞬我を忘れ、拍手の嵐が起ったのは、両雄が握手をし終った後からだった。

その長い試合はまた、1年のブランクを埋める働きもしたようだった。

準々決勝の対M・F・ハンセン戦、準決勝の対F・デルフス戦では、要所要所にスマッシュを打つスピードが生まれ、ネット際の鋭さも一変していた。

ハンセンもデルフスも、目前で見たハルトノの神通力にプレッシャーがかかったのか、得意のヘアピンもネットへおじぎを繰り返して、反撃の糸口すら掴めないままに敗退。

針の穴を通すような正確なクリアーに、あの〝デルフス〟がジャッジミスを重ね、スマッシュよりもダイナミックなフォームで打つドロップに、若いハンセンの足が出ないのだ。

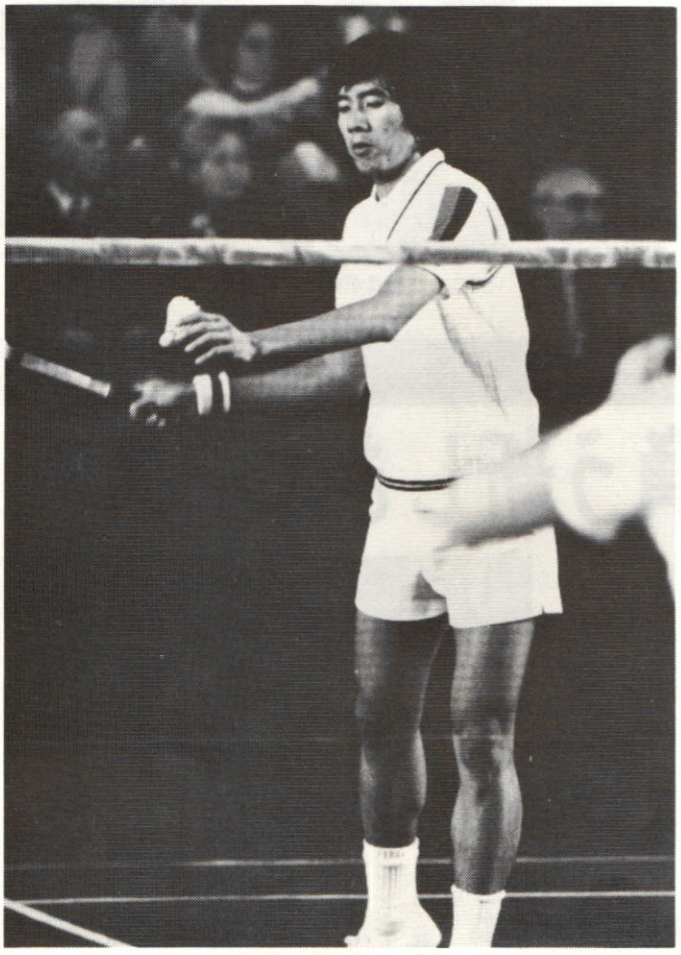
一昨年の決勝戦を再現した、リム・スイ・キンとの一騎打ちは、いやが上にもファンの熱気を煽ったが、インドネシアのお家の事情（？）か、どう見ても決勝戦らしい〝正当〟な試合とはいいがたい内容だった。

なぜなら、ハルトノが、あのハルトノが、10―7とリードしてラリーもろくに続かないような凡ミスを、4発、5発も続けるだろうか。今まで見せたこともなかった無謀なバックスマッシュを打ったりするだろうか。

少なくとも〝ハルトノは戦っていなかった〟。

年齢的に先の見えたハルトノより、若いリム・スイ・キンを優勝させて新しい英雄を作りたい国情（？）もあるだろうが、〝世界のヒーロー〟にも戦う権利だけは与えてほしかった。

会場からの帰路、日本の銭谷がこういった。「ハルトノはバドミントンの手本だ」と。

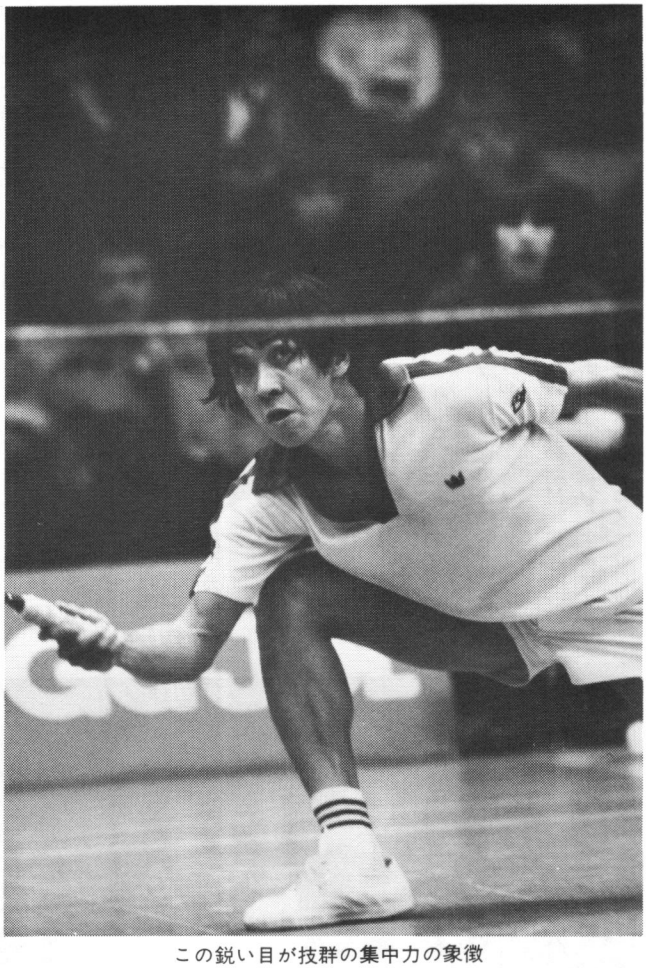


王者の風格をただよわす

世界の強豪たち

王国を背負う新しきエース

リム・スイ・キン



この鋭い目が技群の集中力の象徴

3度目の決勝進出で得た初優勝。ハルトノに、デルフスに苦杯を飲まされてきたが、絵に描いたような〝三度目の正直〟を果たした。

決勝の試合に疑問（？）はあっても、リム・スイ・キンの優勝にケチをつける者はいないだろう。

素晴しいダッシュと軽い身のこなし、瞬発力と敏捷性は〝黒豹〟そのもの。ハルトノの後継者とさわがれてすでに数年、ようやく大輪の花が咲いた。インドネシアの新しいエースとして、弱冠22歳のリム・スイ・キンにかかる期待は途方もなく大きい。

キンが今年に賭ける意気込みを見せたのは、まずデンマーク・オープンからだ。

1・2回戦のG・ヘルショルト（デンマーク）、O・エリクソン（スウェーデン）に対して、敢然とオールスマッシュで押し通したのだ。

クリアーとドロップはそれこそ皆無。一球目から上がったらスマッシュ、そしてヘアピンの連続。ネットより浮いた球は全部打つ。形容するなら〝人間速射砲〟か。随所に見せるジャンプスマッシュも、ジャンプでは生ぬるく〝跳びつく〟表現がピッタリ。

その攻撃力を持つキンが、3回戦のM・F・ハンセンとの試合から、対デルフス戦、対キールストロム戦ではガラリ一変してオーソドックスな戦法に切り替える。鮮やかな計算された変身だ。数々の苦い経験から、完成に近づきつつあるキンの、「今度こそ負けられない」という姿勢がうかがわれた。

全英選手権でも、デンマークと同じパターンで挑み、見事に初栄冠を奪い取った。

身長1メートル70弱。まったく中肉中背の日本人と変らない体格。ただ下肢は細いのに、大腿部の発達は目を見張るものがある。

ヨーロッパ選手に劣る体格の差と腕力の差を、50センチものジャンプ力と、誰よりも正確で速いネットプレーで克服し、完全に補って余りあるものがある。

偉大なハルトノの後継者としてその弱点を探すなら、体力、技術にではなく、精神面にあるだろう。

何事にも動じない、すべてに大陸的だったハルトノと比較すると、多分にナイーブな面が見受られる。

ラインズマンの僅かなジャッジミスに「アーッ」とかん高い声を上げる表情は、悲愴感さえ漂わせる。

このかん高い声が消えた時、リム・スイ・キンは〝第2のハルトノ〟ではなく〝リム・スイ・キン〟そのものになる。

突然トッププレーヤーの仲間入りをした、プリ、デルフスに次ぐデンマーク〝第3の男〟。

デンマークにハンセンの名は多いが、これからはこのモルテン・フロスト・ハンセンの時代か。

今年度のデンマーク国内選手権で、世界のスタープレーヤー、スヴェン・プリ、フレミング・デルフスを見事に抑え、国内戦チャンピオンの座についた。19歳のチャンピオンである。

ちなみにスコアは、準決勝、M・F・ハンセン15―5、18―13、S・プリ。決勝、M・F・ハンセン9―15、15―6、15―4、F・デルフス、であった。恐しい新人が現われたものである。

さらにデンマーク・オープンでは、スウェーデンのスター・ジョンソンを15―11、9―15、15―6とファイナルの末降し、全英選手権では第8シードにシードされ、イギリスのデリク・タルボットに15―12、15―8でストレート勝ちをおさめ、国外でも通用することを実証した。

おまけにハルトノにも善戦して、彼の国際的評価は不動のものになった。

バドミントン一筋に打ち込む生真面目さが、シャトルを追いかける表情に表われている、だだ今売り出し中の好漢。

1メートル80余の体は、ムチのようにしなやか。特に膝、手首の関節は、鍛えられた筋肉に支えられて素晴しい柔軟性を見せる。

勝負に対する激しい闘志は、そのままキビキビしたフットワークを創り出している。ヨーロッパ選手には珍らしく、強力なバックハンドを温存して、フォアで回り込む正攻法のバドミントンを繰り広げ、ネットプレーはあくまでも速い。

今年デンマーク・オープンで戦った、リム・スイ・キンから得たものは何か。全英選手権のハルトノから盗み取ったものは何か。

気の毒なほど緊張して、コチコチになっていたハルトノ戦。若さとスピードも、完璧なハルトノの前には暴走だった。

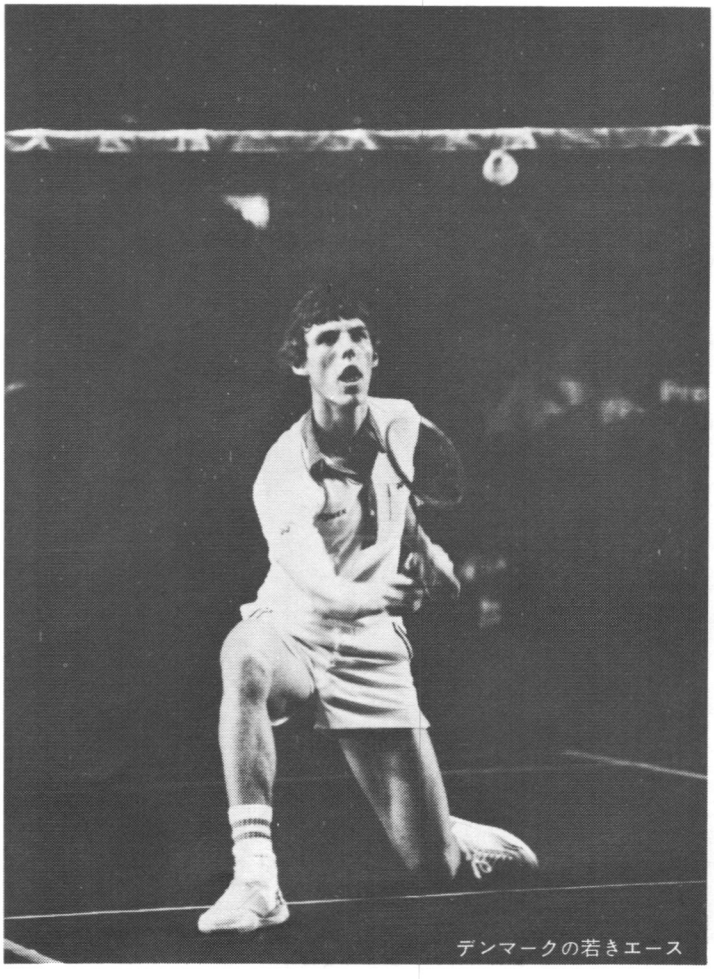
〝昇り竜〟ハンセンにとって、大きな試練だった。

来年が楽しみである。この勢いが、どこまで続いているのか。そして、2年後、3年後には、どんな姿になっているのだろうか、日本選手にとっては脅威となりそうな、デンマーク期待の〝怪童〟である。

世界の強豪たち

19歳の国内チャンピオン

モルテン・フロスト・ハンセン



デンマークの若きエース

おそらく身長1メートル80はあるだろうか〝足長おじさん〟よろしく〝足長ギルクスさん〟である。

今大会は2回戦で米倉と、準々決勝で徳田と、準決勝で湯木と、決勝で近藤と、珍しくもすべて日本選手と対戦し、全日本選抜対ギルクスの感があった。

湯木との試合がファイナルゲームにもつれたほか、これといった苦戦もなく日本選手を総ナメにして、彼女自身2度目の優勝を飾った。

徳田が第1ゲーム0ゲーム、近藤が第1ゲーム1本というように、相手の不調につけ込んで一気に引き離す。大柄な選手に似つかわしくないような駆け引きに長けたところを持っている。

高い打点から打ち下ろすスマッシュには、他の女子選手には真似できない角度があり、相手をたじろがせる威力を持っている。

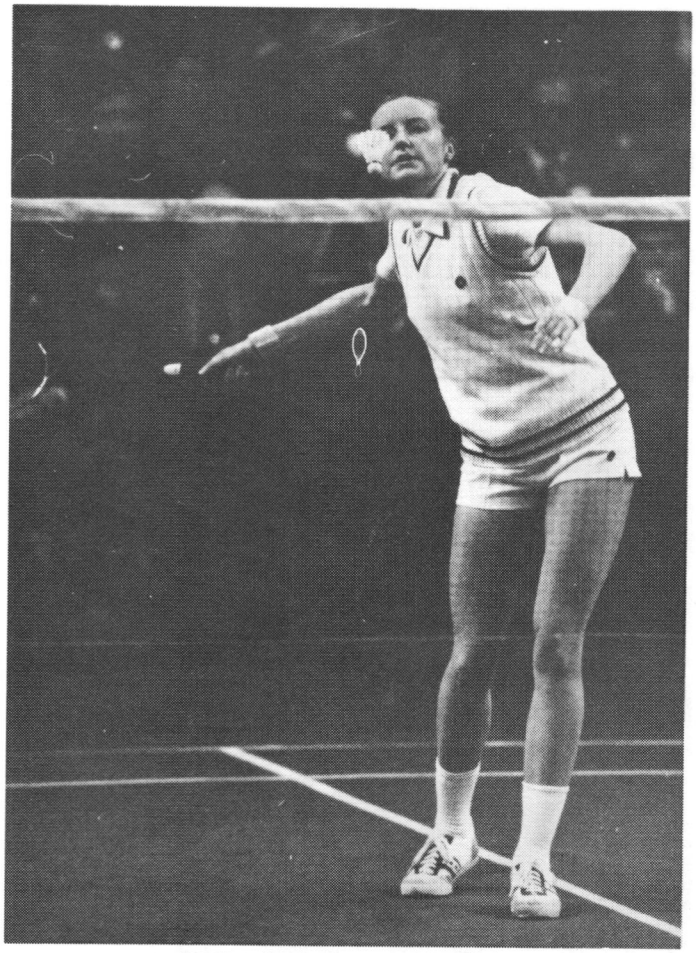
大きな角度はカット、ドロップショットも同様で、切れ味があり日本選手の悩みの種となっていた。

どちらかといえば、やはりこの長身を武器に、カット、ドロップで崩してスマッシュを決める、オーソドックスな攻撃型。

世界の強豪たち

孤独な女王ギリアン

ギリアン・ギルクス



〝孤独な女王〟ギルクスはまだ健在

ギルススのもう一つの長所といえば、一般に大柄な選手は足腰が弱いとされているが、彼女にはそれが見られない点であろう。柄に合わず、ヒョロヒョロした細長い足で案外粘るのである。

世界一になるためには、目に見えるような欠点があっては、とうてい駄目ということか。

長い間マーガレット・ロックウッド（旧姓ベック）夫人とともに、両輪となってイギリスを支えてきたが、ロックウッド夫人が膝の故障で戦列を離れ、文字通り孤軍奮闘であった。

しかしギルクスにしてみれば、イギリスの伝統を守ったというより、自分の名誉のために戦ったはずである。

というのは、今年のユーバー杯のナショナルチームのメンバーに選ばれていないからだ。

イギリス協会にいわせると、どうもギルクスは「鼻持ちならない」らしい。傍若無人な振舞いが、紳士の国イギリスのお気に召さなかったのか。

全英のチャンピオンをユ杯のメンバーからはずすとは、日本では考えられないことである。湯木をメンバーからはずすようなものだ。

うがった見方をすれば、今回の優勝もギルクス〝一世一代の女の意地〟が爆発したのかも知れない。

今年の1月、2度目の来日で日本にもおなじみのファンが多い。

昨年の第1回バドミントン世界選手権大会に優勝して以来、プレーにもコート上の仕草にも一段と貫禄が出てきた。

がしかし、今回の全英選手権では、準々決勝でカナダのウェンディ・クラークソンに、8―11、11―6、8―11のスコアでフルゲームの末敗れ、念願の全英制覇の夢は、また来年に持ち越された。

デンマーク・オープンは、今年で3回目の優勝を果たしており、さしずめ全英は鬼門か。

〝大男〟スティーン・スコブガードと組むミックスも、デンマーク・オープンで3連勝を記録。

ダブルスも下手ではないはずだが、良績がないのはパートナーに恵まれない不運としかいいようがない。

地元の試合では、毎試合コスチュームを変える気の配りようで、場内の拍手もひときわ大きい。口笛を吹いたり、床を踏み鳴らしたりで、人気は相当なものである。

コーペンの最大の長所を一つ挙げるなら、それはクリアーであろう。

世界の強豪たち

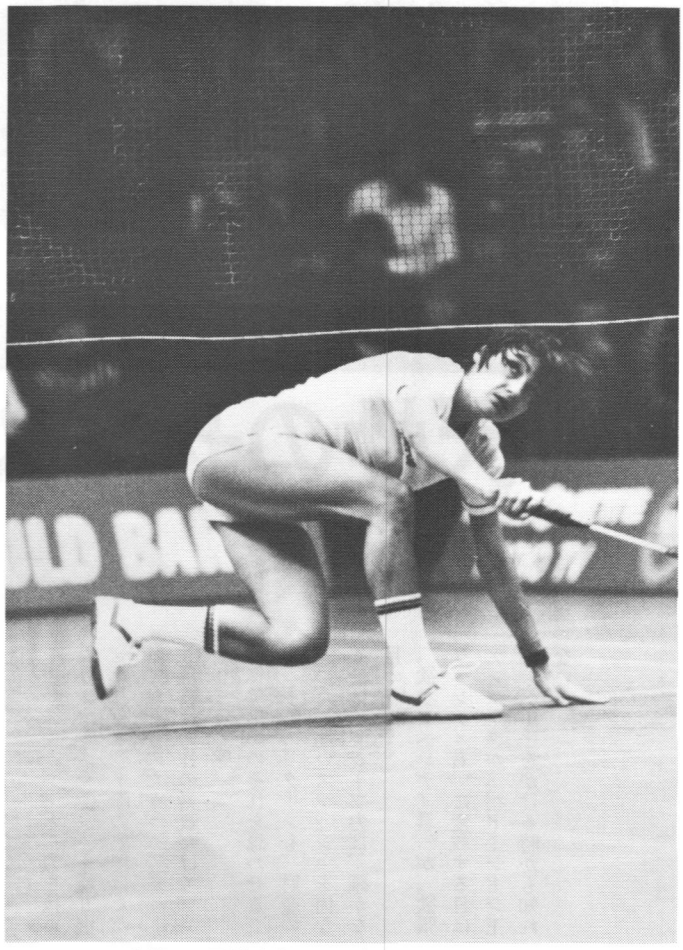
〝生きたクリアー〟が魅力

リーン・コーペン

速くて正確なクリアーに、ほとんどの対戦相手は、のけぞり体勢を崩してミスを重ねていく。〝生きたクリアー〟と表現できるだろう。

キビキビした動きで最後の一歩まで、一生懸命シャトルを追いかける姿は、思わず見る者を引きつける。

日本では古いとされている、あの〝コーペン式〟バックハンドを、堂々と使いこなすあたりなかなかの大物である。



全英では不覚を喫したが実力はナンバーワンか

写真をお分けいたします。

今月号では全英選手権における各国選手の活躍ぶりを、多くの写真でご紹介しましたが、ご希望の方にお分けいたします。

男子のルディ・ハルトノ、リム・スイ・キン、チュン・チュン、ワジュディ、スヴェン・プリ、女子のギリアン・ギルクス、リーン・コーペン、ウェンディ・クラークソンをはじめ、すぐれたプレーヤーの写真を用意してありますが、今月お分けできるものは、表紙③に掲載のものです。

モノクロのみですが、キャビネ判プリント、四つ切パネル貼りの二種類ですので、表紙③をご参照のうえ、お申し込みください。

世界の強豪たち

天性のセンスはピカー

ジェスパー・ヘレディ

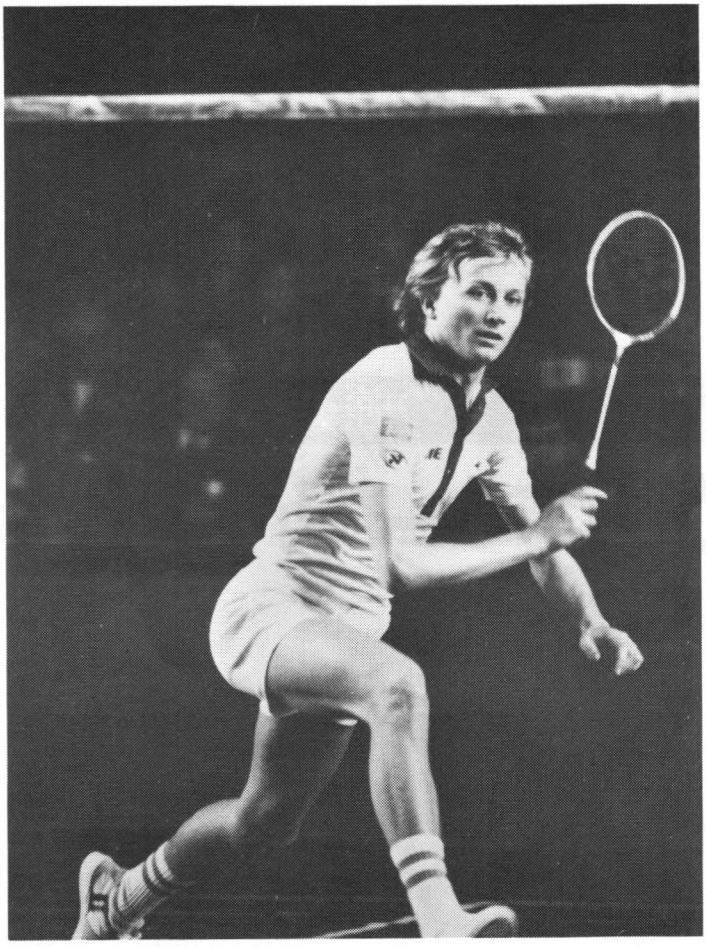
ジェスパー・ヘレディ。耳慣れない名である。しかし、あのスヴェン・プリとダブルスを組み、2月のオランダ選手権に優勝したデンマークのホープである。

シングルスでも、デンマーク・オープン、全英選手権ともにT・キールストロムに敗れたが、デンマーク・オープンでは立派にベスト8。日本の銭谷にもストレートの完勝。つけ入る隙を与えなかった。

日本流に表現するなら、〝紅顔の美少年〟タイプ。

「欲なしヘレディ君」とでも呼びたいような、やる気があるのかないのかサッパリわからない、ヒョウヒョウとした態度で試合を進める。

パートナーのプリが、懸命になってのガッツプレー。片やヘレディは、すました顔で無頓着。奇妙なコンビである。



卓越したラケットさばきを披露した

そのヘレディも、悔しいプレーに小さな唸るような声で、カンシャクを起こす。したたかさも秘めているのだ。

少女のような顔——ヒョウヒョウとした態度——唸り声。結びつきにくいこれらが妙に印象的なのだ。

プレーの特徴は、銭谷を破った試合にもっとも多く出たようだ。

腰高だがそれだけに身軽な構え。上下動の極端に少ない、滑るようなフットワーク。フォームも小さく、リキまずにスナップだけで打つようなスウィング。

自分からは決して攻撃を仕掛けず、相手の攻めをかわしてから反撃に出る、典型的な遅攻型。それもスタミナタイプの粘りとは違う、配球の上手さが身上。配球の巧みさに、天賦のセンスがキラリと光る。

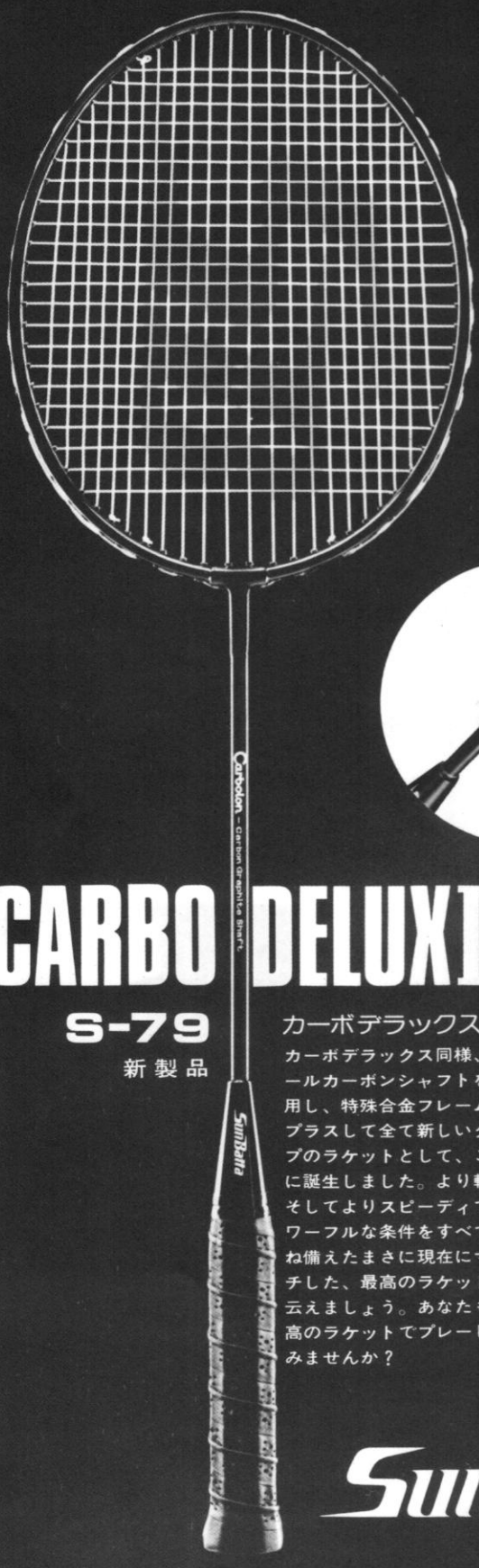
ただ残念なのは、散慢なプレー。無気力から生まれるミスが目立つ。

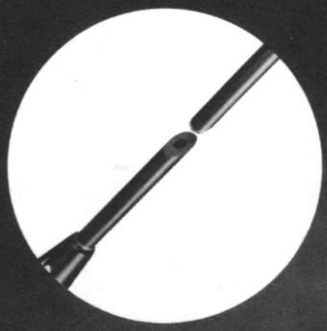
重いスマッシュと、力を抜いたハーフ・スマッシュを織り混ぜたり、ネット際の処理はただ者ではないのだが。

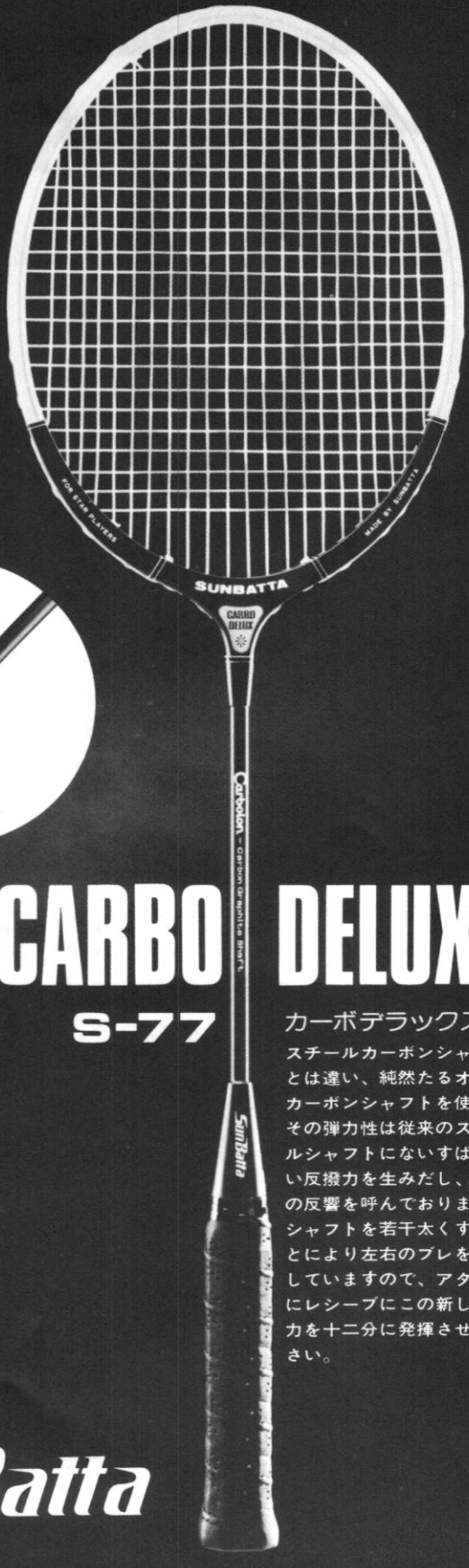
現在は天性の素質だけでプレーしている感。

ベテランのそれを思わせる、ネット際のリターンも、財産の一つだ。速いスマッシュを何なく受けるレシーブ力は、確かな目の証拠。

〝欲なしヘレディ君〟が〝欲張りヘレディ君〟に変貌する日は、デンマークが〝バドミントン王国〟へ王手をかける時かも知れない。







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

ALL-ENGLAND BADMINTON CHAMPIONSHIPS

全英選手権ア・ラ・カルト

á la carte

昨年は個人の世界選手権が初めて開催されたが、伝統・歴史という点では、まだまだ全英選手権に遠く及ばない。

そこで、今年で68回を迎えた全英選手権の、第二次大戦後にしぼって記録を追ってみることにしよう。

日本初参加は小宮選手

孤独の闘いでベスト8に

全英選手権大会は今年で第68回を迎えたが、途中大戦による中断などがあり、第1回大会は1899年のことである。

日本からの参加は1963年の小宮好雄選手（神奈川県出身立教大学OB・トヨタ自動車工業）が最初で、その時は選手団などというものではなく、ただ一人の孤独の参加であった。しかしベスト8にはいる健闘だった。

小宮選手については、全英選手権の試合中、転倒して手を負傷、ところが全英選手権では、試合中に選手がコートから離れることが許されず、血を流しながらプレーを続けていると、審判が見かねて真白なハンカチを渡したというエピソードが残っている。

優勝できぬイギリス男子

伝統ほこるデンマーク

第2次世界大戦後、今年までの各種目の優勝者を国別に分けてみると次のとおり。

▽男子シングルス
デンマーク11回、マレーシア（マラヤ時代も含む）9回、インドネシア10回、スウェーデン、アメリカ各1回となっている。面白いことに地元イギリスは男子種目に一度も優勝していない。

▽女子シングルス
アメリカ12回、デンマーク7回、日本6回、イギリス5回、スウェーデン2回。

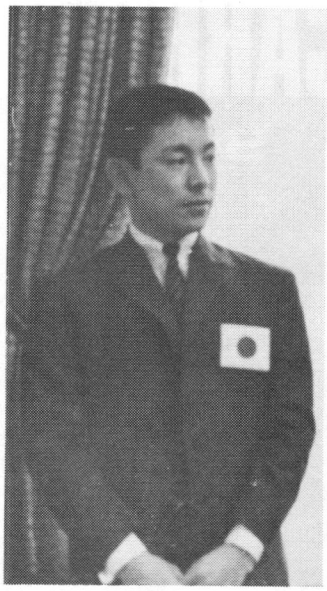
アメリカが断然トップであるが、内訳はヴァーナーが2回で残り10回は、かの有名なジュディ・ハッシュマン夫人である。独身（デブリン嬢）時代に4回で結婚後が6回である。このアメリカの誇る史上最強の選手もいまはイギリスに渡り、ユーバー杯チームを率いている。

▽男子ダブルス
デンマーク15回、マレーシア（マラヤ時代を含む）10回、インドネシア6回、スウェーデン1回。1971年まではデンマークとマレーシア（マラヤ）がトップを争っていたが、1972年にインドネシアのクリスチャン・チャンドラ組が勝つと、その後はインドネシアの天下となった。1976年にそこに割ってはいったのが、来日したこともあるスウェーデンのフローマン・キールストロム組である。

▽女子ダブルス
デンマーク8回、イギリス8回、日本6回、アメリカ3回、インドネシア1回、そして残る6回は混成ペアである。内訳はアメリカとイギリス1回、アメリカとアイルランド3回、アメリカとデンマーク1回、オランダとデンマーク1回となっている。

▽混合ダブルス
デンマーク18回、イギリス12回、アメリカ1回、マラヤとイギリスの混成ペア1回。

デンマークとイギリスの圧倒的な強さが目につく。とくにイギリスのA・D・ジョーダン選手は、1956年から1968年まで13年間も活躍。その間に4回優勝している。



小宮好雄選手

総合すると次のとおり。

デンマーク61回（混成組含む）
イギリス27回（混成組含む）
アメリカ22回（混成組含む）
マレーシア20回（マラヤ時代、混成組含む）
インドネシア17回
日本12回
スウェーデン4回
アイルランド3回（混成組のみ）
オランダ1回（混成組のみ）

こうしてみると、デンマークの伝統がよくうかがえるが、デルフス、コーペンといった選手により再びデンマークが天下をとる日がくるかも知れない。

地元イギリスとしては何とかして、男子の単複に優勝したいところであろう。

めだつミセスの大活躍

男子は5回以上優勝5人だけ

歴代の選手の中で今年までに、優勝回数が5回以上の選手を順を追ってあげると次のようになる。

▽男子

①E・B・チュン（マラヤ）
単4回、複3回、合計7回

②E・コプス（デンマーク）
単7回、複3回、合計10回

③R・ハルトノ（インドネシア）
単8回

④F・コペロ（デンマーク）
複7回、混合8回、合計15回

⑤J・H・ハンセン（デンマーク）
複6回

▽女子

①K・ソーンダール（デンマーク、のちのグランルント夫人）
単1回、複5回、混合5回、合計11回

②G・アーム夫人（デンマーク）
単2回、複5回、混合4回、合計11回

③J・R・ホワイト（イギリス、のちのティンパリー夫人）
複3回、混合3回、合計6回

④J・デブリン（アメリカ、のちのハッシュマン夫人、イギリス籍に）
単10回、複7回、合計17回

⑤S・テブリン（アメリカ、のちのピアード夫人、アイルランド籍に）
複6回

⑥U・ラスマッセン（デンマーク、のちのストランド夫人）
複3回、混合7回、合計10回

⑦湯木博恵（日本）
単4回、複1回、合計5回

⑧梅野尾悦子（日本、旧姓竹中）
単1回、複4回

⑨ギリアン・ギルクス夫人（イギリス、旧姓ペリン）
単2回、複2回、混合4回、合計7回

⑩P・E・ウェトナール夫人（イギリス、旧姓パウンド）
複3回、混合2回、合計5回

このように、男子は全英選手権5回以上優勝者が5人しかいないのに女子は10人もいる。女子のほうが選手としての年月が短いということか。しかも、ミセスの活躍が多いのには驚く。

史上最強はハッシュマン夫人

ハルトノも前人未踏の記録

全英選手権史上最強のプレーヤーはといえば、やはりなんといってもジュディ・ハッシュマン夫人であろう。

じつにシングルス10回、ダブルス7回の優勝は、男女を通じて最高である。

ハッシュマン夫人は、旧姓デブリンといってアメリカを代表する選手だった。実に14年間もアメリカ代表となり、USオープンではシングルス12回、ダブルス12回優勝という記録を残している。

イギリスのあるメーカーからはデブリン・ブルーというラケットまで出されたことがあるほど、彼女の名声は知られている。

ちなみに父親のフランク・F・デブリン氏もアメリカ屈指のプレーヤーであり、USオープンで2年連続して単・複・混合複のトリプルクラウンになっている。

そして、ハッシュマン夫人に次ぐのが男子のルディ・ハルトノであろう。ハルトノはシングルスにしか出場せず、記録は8回であるが、7年連続の記録を持っており、これは前人未踏であり、今後も当分破られることはないであろう。

この意味では、ハッシュマン夫人と優劣をつけがたい。

今年は僚友のリム・スイ・キンに優勝を譲ったかたちとなり、準決勝までの力を出せば、おそらく9回目の栄冠ということになったのでは……。



ジュディ・ハッシュマン夫人

第8回ユーバー杯アジア地区予選決勝

日本、インターゾーンへ

マレーシアに逆転勝ち

〝女子世界一〟奪還をめざす日本ユーバー杯チームは、4月8日、クアラルンプールにおいてマレーシアと、ユーバー杯アジア地区予選決勝を行ない、4―3で辛勝。インターゾーン進出が決定した。

日本チームは、トップシングルスの近藤小織（河崎ラケット）が、マレーシアのスタープレーヤーのシルビアに敗れ、続く湯木博恵（河崎ラケット）も若手キャサリンに不覚をとり、前途を危ぶまれたが、ダブルスの徳田敦子（サントリー）・高田幹子（サントリー）組、植野恵美子（ヨネックス）・米倉よし子（電電東京）組の活躍で逆転勝ちをおさめた。

一行は、10日全員元気に帰国、さっそく17日より姫路で合宿に入った。

日本 4 (単1―2 複3―1) 3 マレーシア

▽シングルス

近藤 0 (4―11 11―12) 2 シルビア

湯木 1 (10―12 11―8 4―11 2) 2 キャサリン

徳田 2 (11―2 11―0 0) 0 ヤップ

▽ダブルス

植野 2 / 米倉 (15―8 15―8) 0 シルビア オン

徳田 2 / 高田 (15―2 15―5 15―2) 0 ヤップ キャサリン

徳田 2 / 高田 (15―2 15―11 0) 0 植野 米倉（日本ペア棄権） シルビア オン

一時はヒヤッとした

板垣隆房監督の話……暑さと、風と、滑ったり止ったりする床と、いろいろ条件が悪かったのですが、みんなよくがんばってくれました。近藤は練習で足を捻ったのがひびいたようです。

ニュージーランドでの条件はそれほど悪くないと思いますが、どんな条件にも応じられるよう、もう一度厳しい練習をして臨みたいと思います。

天野博江コーチの話……シングルスの方が固いと思って、7―0か6―1で勝てると予想していたのに、逆になってしまいました。最初2点を取られて緊張しましたが、それ以外は力の差があったようです。他国での試合は、実力を度外視したプレッシャーやムードが、試合を左右するので恐いですね。

湯木博恵選手の話……風は計算していたつもりなんですが、ジャッジミスが多く申し訳ないと思っています。三番手以下が実力的に離れていたので助かりました。

植野恵美子選手の話……練習日の初日に足の筋を伸ばして、以前痛めたところなので……。

シングルスをリードされて、絶対取らねばとプレッシャーがかかりました。前半はコチコチでした。

募集します!!　バドミントン界編集部

①クラブ紹介

学校、地域、職場など、あなたのクラブを本誌で紹介してください。原稿用紙にタテ書きで、一行二〇字×一五〇行程度。必ず写真を添えてください。

②決定的瞬間

プレー中の写真を送ってください。大きさはキャビネ判、モノクロに限ります。

③作文

テーマは、「私とバドミントン」。原稿用紙にタテ書きで、四〇〇字詰め一〇枚以内。しめ切りは昭和五三年五月末日。

①クラブ紹介と②決定的瞬間は、順に誌上に掲載させていただきます。③は応募作文を選考のうえ、秀作五篇、佳作五篇を選び、秀作を誌上に掲載させていただきます。また採用の方には、記念品をお送りいたします。なお、応募作品はいずれもお返しできませんのであらかじめコピーをおとりください。

チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが
使っているヨネックスの
インターナショナル製品を
抽選で、10,000名の方に
プレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。

ラケット

B1000　B2000　B3000　B4000　B5000
B6000　B6500　B7000　B8000　B8100
B8300　B9000　B9100　B9300

ウエア

日本バドミントン協会推せんのすべてのシャツ、ショートパンツ、ワンピース、スカート、キュロット、セーター、ベスト。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。

バッグ

No.354　No.355　No.350　No.351　No.352（A・Bのみ）
No.356　No.357　No.359　以上該当商品

●抽選で10,000名の方に下のものどれか1点をプレゼント。

1.バッグA　2.バッグB　3.ポット　4.ラケット
5.ウォームアップ　6.タオル　7.ラケットケース
8.ガット

以上の商品はイギリス、オランダ、スエーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法

おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間

昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表

昭和53年6月15日
雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。



③バドミントン・ポット（500個）
シャトルコックスタイルのシャレたポット



②バッグB（500点）
ヨーロッパ一流プレイヤーのサイン入り



①バッグA（100点）
ラケット、ウェアなどが専用に納まる特製バッグ
（※写真のうち、ラケット、ウェア、アクセサリーなどは含みません。）



⑤ウォームアップ
（100セット）
断然人気のNo.118型特製



④ラケット
B-9100（300本）
サイン入り



⑥タオル
（500本）
特大のスペシャルタオルです



⑦ラケットケース
（3,000枚）
特製サイン入り



⑧ガット（5,000張）
ヨネックス高級ガット

YONEX WORLD BADMINTON FAIR

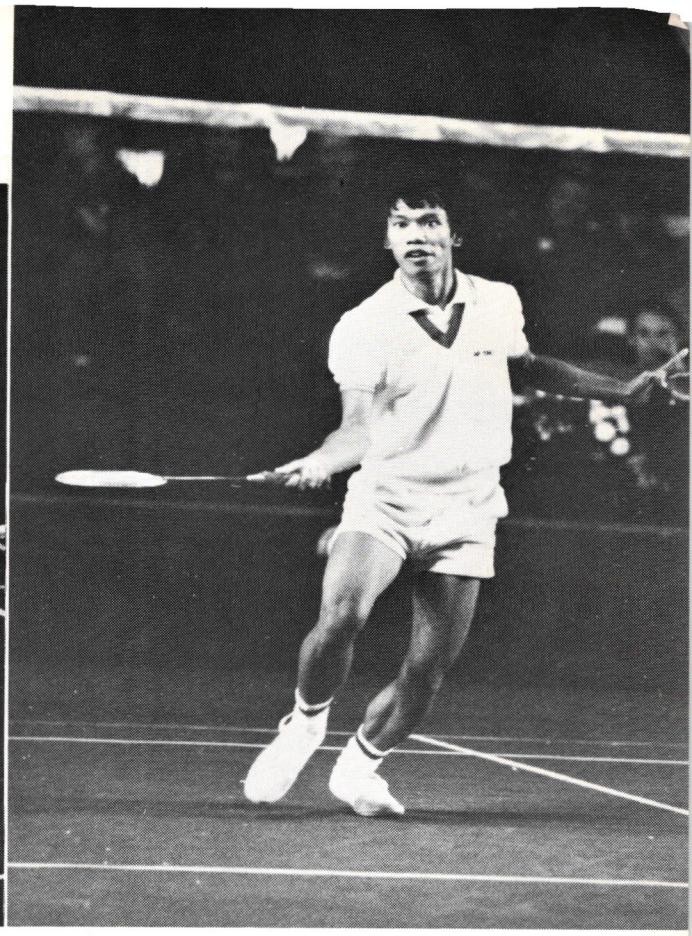
ヨネックス ワールド バドミントン フェア

10,000名さまプレゼント!

YONEX®

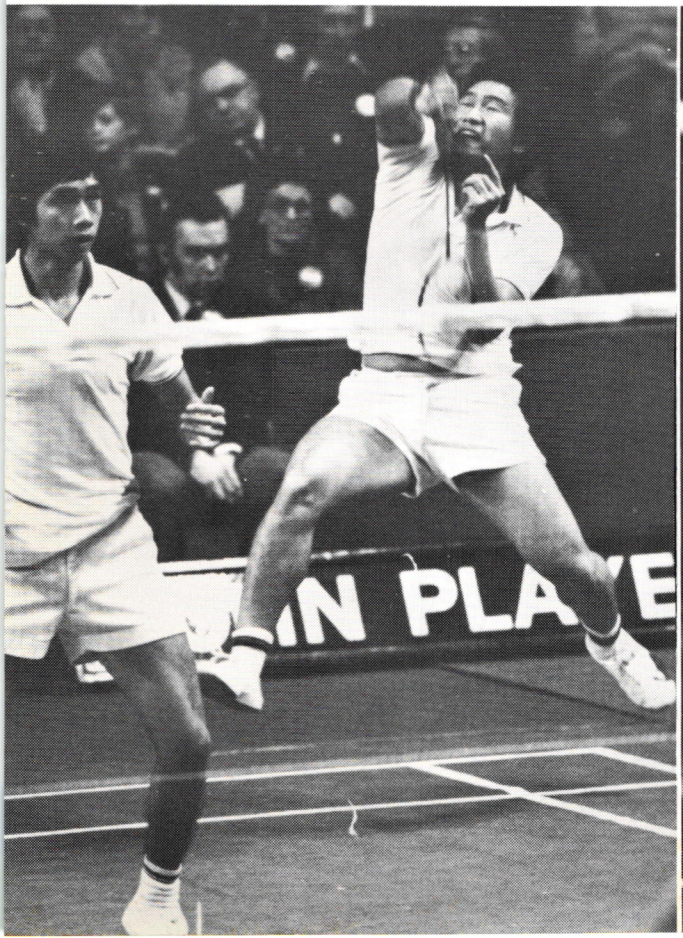
飯野・土田



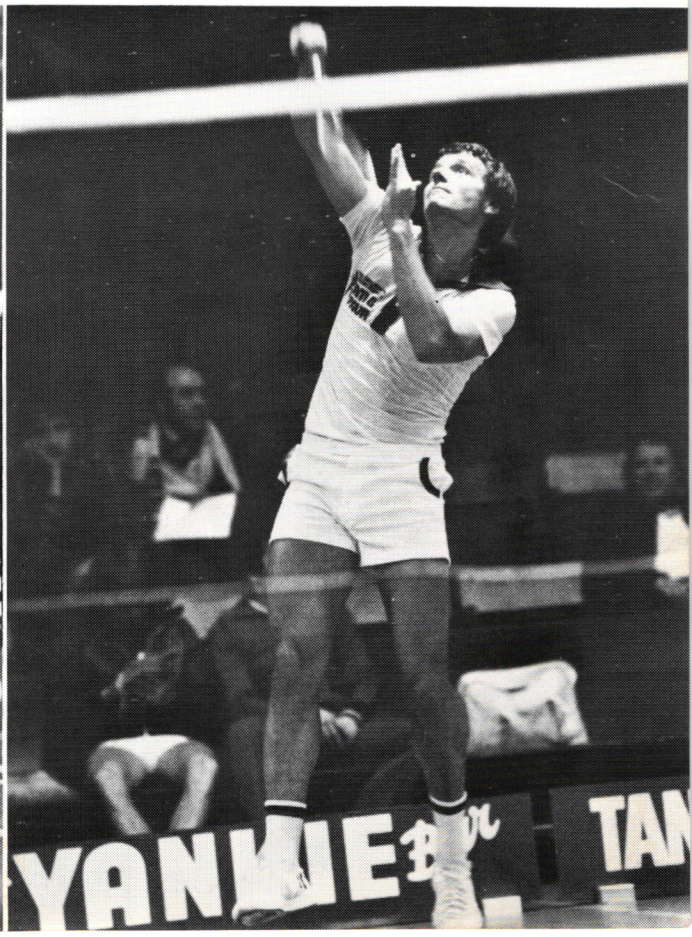


スミラット

クリスチャン(左)・チャンドラ

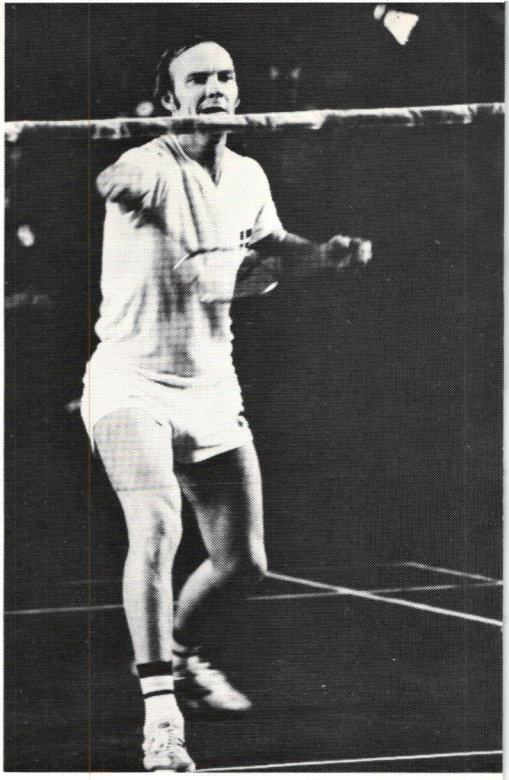


デルフス

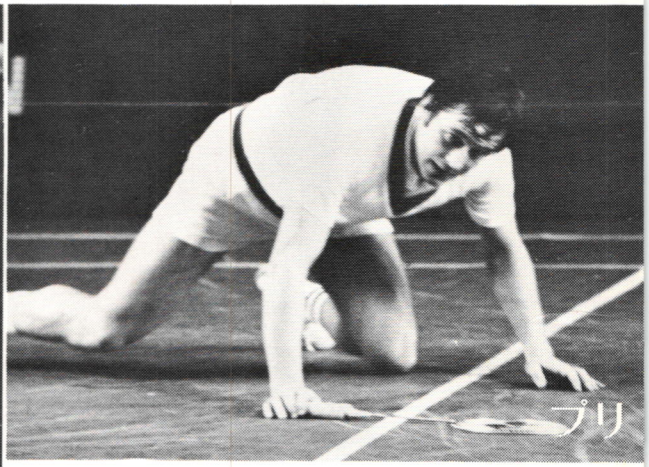


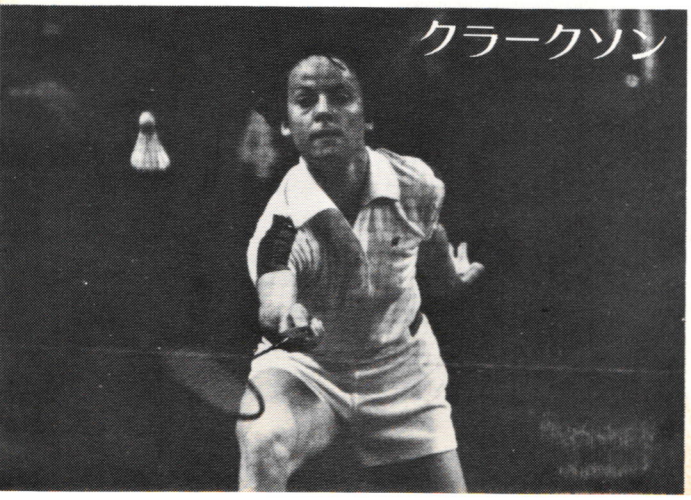


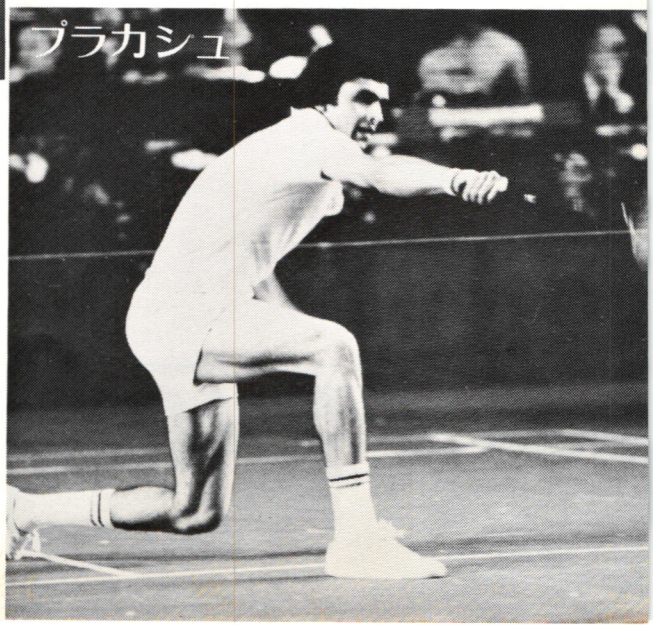
湯木博恵


ジョンソン


近藤小織


プリ

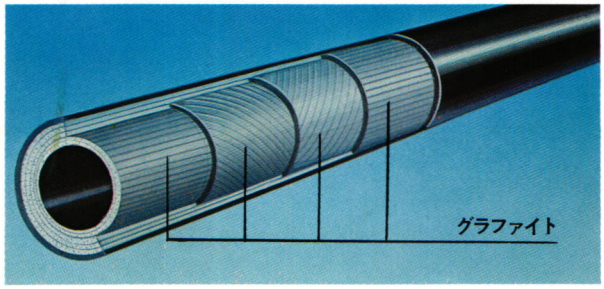

クラークソン


プラカシュ

E RACKET

世界初の100%
グラファイトシャフト

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B－82・B-80もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。カワサキはこの難問を独特のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を4層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。



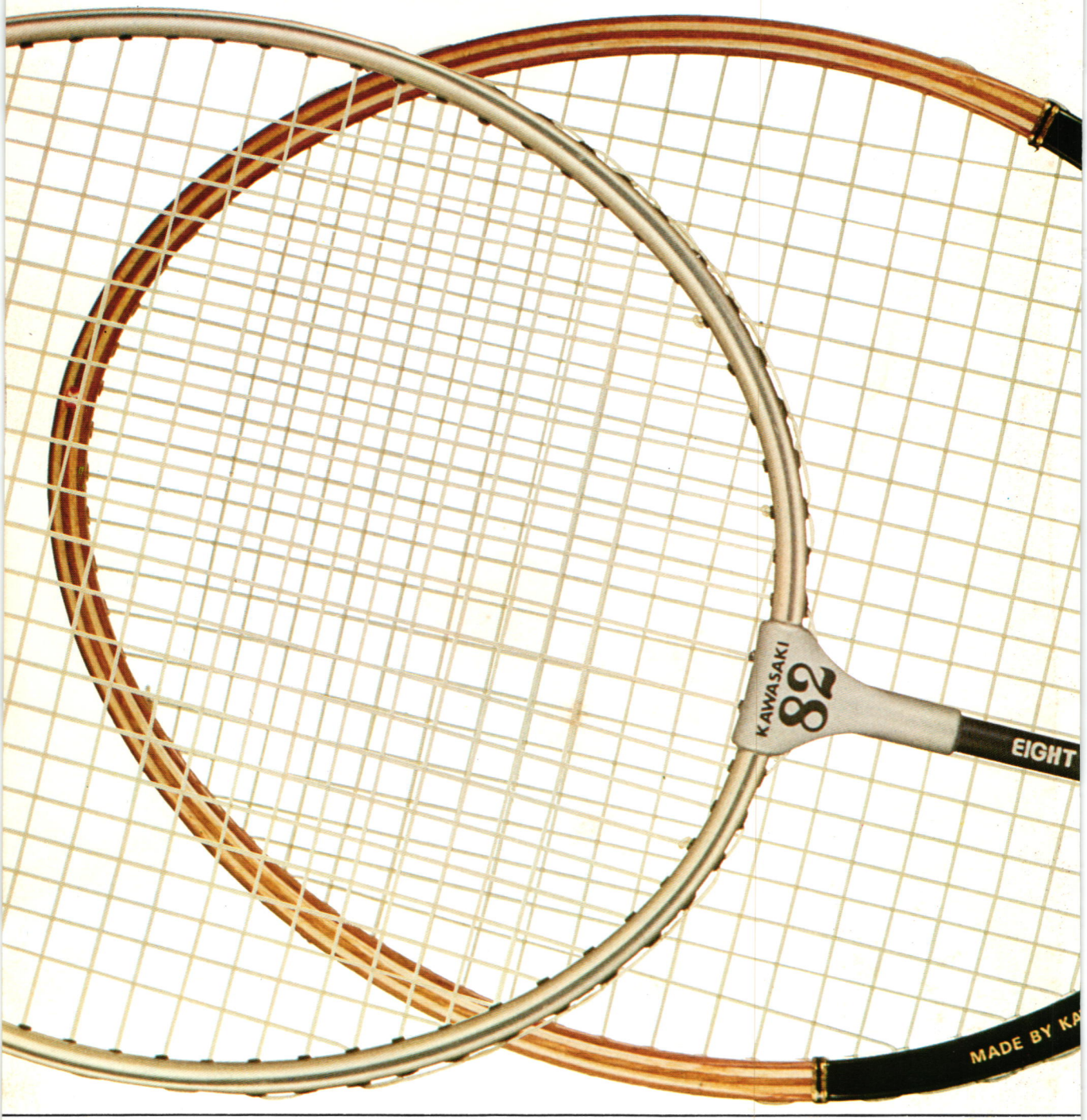
kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

AFT

B-82
グラファイトシャフト アルミフレーム シルバー(ケース付)
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,700円

B-80
グラファイトシャフト ウッドフレーム 黒(ケース付)
フレーム価格7,700円 ガット張り上り価格8,400円

GRAPHIT



スイートスポットの広さがちがう

ALL GRAPHITE SHA

観戦記

●全英ツアー「バドミントン視察団」に参加して

あの〝しぶき〟はナンダ？

㈱日本コンテナターミナル勤務・40歳
渡辺武司

3月8日、羽田空港の出発ロビーに集合したわれわれ一行は、全員の無事を祈って乾杯、日本をあとにした。

9日、現地時間の早朝午前6時、雨のコペンハーゲンに到着。定刻通りの着陸である。ホテルのチェックインまで時間があるため、すぐ迎えのバスに乗り込み市内観光に出発する。朝の6時から観光巡りというのも、いかにもせっかちな日本人向きで、時差ボケの目をこすりながら懸命にカメラのシャッターを切る。デンマーク王室の住居であるアマリエンボルグ、コペンハーゲンのシンボルである人魚の像などを回る。市内は非常にスッキリして、ほとんど看板がない。清潔な感じ。道路には必ずといっていいくらい、車道と歩道の間に自転車専用の道路がついている。通勤時間が近づくにしたがって車、自転車で急ぐ人が多くなってくる。

10日、オプショナルツアーで北部の古城を見学のあと、デンマーク・オープンの会場であるK・B（コー・ビーと読む）・ホールに到着。4～5千人近く収容できそうな会場は大変な熱気。ヒーターが効いているので暖かい。5面のコートで同時に進行している。外国選手のユニフォームはカラフルで、色とりどり。特に色の規制はないようだ。自国の選手に限らず、ベストプレーには惜しみなく拍手を送る。プリ選手の試合は一昨年来日した時にも見ているが、日本でのプレーと比べると別人のようなパワーで、恐しいスマッシュを打つ。インドネシア選手のプレーを見るのは今度が初めてだが、やはり底知れぬスタミナとパワーを感じる。そしてスピード。スマッシュを打った瞬間、ラケットを離れたシャトルから霧のようなものが立ちのぼる。あれは何か？　ほこり？　それとも汗をかいたシャトルのシブキ？　毎日試合の終了は午後10時頃、しかし客席を立つ人は1人もいなかった。

11日、準決勝を見たあと、K・B・K（コペンハーゲン・バドミントン・クラブ）を訪問。一行は久しぶりにプレーができるというので、ラケットを持参して行く。何人かの日本選手団の人達と一緒である。クラブはバドミントン専用の体育館で、コートは5面。着がえるのももどかしくコートに入る。久しぶりにラケットを握り汗を流す。実に気持ちが良い。視察団の参加者はいずれも腕のたつ人ばかりで、伊藤団長の若々しいプレーには特に驚いた。僅かの時間ではあったが、クラブの人々とともに楽しく汗を流す。ラケットさえ握っていればゴキゲンの小生等は、いつでも練習ができるという当地の人達を、本当に羨しく思う。

12日、昨日久々に汗を流して実に快適。朝食がうまい。当然といえば当然だが。本日は決勝、5面のコートのうち中央のコートのみ使用される。民族衣装の子供達の鼓笛隊が、いよいよ熱気を盛り上げる。女子シングルスで地元のコーペン選手が、日本の徳田選手に勝って優勝。もう大変なさわぎ。拍手だけでは間に合わず、いっせいに足を踏み鳴らす。

決勝の結果は、地元デンマークが女子シングルス、男子ダブルス、ミックスに優勝。インドネシアが男子シングルス、女子ダブルスの2つを取る。日本は女子シングルスに徳田選手が、ダブルスに植野・米倉選手が準優勝。

13日、私達一行は、全英が始まるまで予定にしたがってフランスに向った。午後、パリのドゴール空港に到着すると、早速市内観光に出た。時間があまりないため、駆け足旅行で実に忙しい。ノートルダム寺院、エッフェル塔等観光名所には、日本人が本当に目につく。これだけ多勢いると、懐しいなどという感情はまったくわいてこない。日本のどこかの観光地のような気さえしてくる。街を歩いても2分に1人ぐらいの割合いで日本人に出会う。なんといっても「二フンジン」というぐらいだから。

14・15日とフランス観光の後、ロンドンのホテルに到着。昼食後、早速全英の会場であるウェンブレーに向う。会場は私達のホテルより車で20分。コートは7面。照明はコート上部にはひとつもなく、サイドから。シャトルがライトに入って見えなくなる心配はない。選手はプレーがしやすいだろう。客席はデンマークのK・B・ホールより一回り大きく、1万前後か。試合の進行はコートが空き次第選手が入り、休みなく続行される。各コートの結果が、場内の巨大な電光掲示板に現れる。今大会でもっとも注目されているインドネシアのハルトノ選手は、3回戦でスウェーデンのジョンソン選手に驚異的な逆転勝ち。飛び上がって喜ぶハルトノ選手。コートに突伏して悔しがるジョンソン選手。それもハルトノ選手の勝利のラケットは、自分のラケットを試合途中でガットを切ってしまい、対戦相手のジョンソン選手から借りたもの。悔しさも格別であったろう。ハルトノ選手のプレーを見ることができるのは、今度の楽しみのひとつであった。全盛期を過ぎたとはいえやはり素晴しい。注意して見ていると、スマッシュはあまり多用しないがチャンスには確実に決める。コート内の動きにまったくムダがない。動物的といって良いしなやかさ。結局準決勝で昨年の全英の覇者、デンマークのデルフス選手にストレート勝ち。今大会の男子シングルスの決勝は、リム・スイ・キンとインドネシア同士で争われることになった。



〝ユキ〟の名は世界にひびく　サインに応じる湯木選手

18日、本日が全英の最終日。デンマークと同様に、中央のコートのみ使用。男子シングルス開始。この決勝戦は楽しみにしていたのだが残念。第1ゲームはともかく、第2ゲームに入るとハルトノ選手の限界か、ミスが多くなりあっけなくストレート負け。デルフス選手にストレートで圧勝したあのハルトノ選手とは思えないような結果となった。もし例えば、デンマーク勢が決勝へ勝ち残っていれば、ハルトノ選手はどのように戦ったであろうか。

19日午前、私達はテニスで有名なウインブルドンの「バドミントン・アンド・スカッシュ・クラブ」を訪問。当初はプレーができるということで楽しみにしていたのだが、結局見学のみ。しかしコーチからいろいろ話をうかがい有益なひとときを過ごす。このクラブはバドミントンコートが4面、スカッシュコートが同じく4面。会員の人達が楽しくプレーをしていた。スカッシュを見るのは小生初めて。バドミントン以上にハードなスポーツのようだ。ただし四方が壁のため幾分閉鎖的な感じもする。クラブ訪問の後、ロンドンより再度コペンハーゲンへ戻り一泊、選手団とともに3月20日、現地時間13時25分、雪の舞うコペンハーゲンをあとに帰国の途についた。

ふたつの大会を見て感じたことは、バドミ

●全英ツアー「バドミントン視察団」に参加して

ハルトノのプレーに感激

慶応大学学生・21歳
橋本敏邦

ントンに限らずどんなスポーツであっても、ある程度の技術水準に達した場合は、最終的にその勝敗を決めるのはやはり体力（スタミナ）ではないかということ。そしてこの体力は体格とイコールではないということ。これらについてははるかに体格に恵まれた欧州選手に対して、今大会だけではなく各地の大会で大活躍している、インドネシアの選手を見ても明らかではないだろうか。体格的に比較的インドネシアに似ている日本選手が、さらに飛躍することができる「鍵」がここにあるように思う。

今回チャンスを得て視察団に参加することができたが、やはり大会を見て思うことは、こうした大きな大会に中国選手の姿が見られないことである。むずかしい問題はあるだろうが、現在実力世界1位といわれる中国が、このような大会に参加できないのはいかにも不自然に思えるし、また中国選手が参加することによってはるかに迫力ある大会が展開されることは十分期待できる。どのような大会にも現在の中国が、より早く参加できるよう、一バドミントン・ファンとして祈るや切である。

日本である国際親善試合とは全然違って、全英選手権でのヨーロッパ選手の真剣な力強いプレーを見て、なぜこのような試合を日本で見せてくれないのか目を疑った。

やはり、全英選手権ともなると、選手の表情もはっきり厳しくなる。

まず、リム・スイ・キンには敗れたが、プリの爆弾のようなスマッシュに度胆を抜かれた。なにしろスマッシュを打った瞬間、シャトルの〝しぶき〟のようなものがパアッと出るのだから相当なものだ。

生まれて初めて見るハイレベルなテクニックに、ただただ感心するばかりであった。

また、1年ぶりに復帰したハルトノは〝さすがだなあ〟というプレーを見せてくれたが、決勝の試合だけは納得がいかなかった。まる



思い出に残る充実した日々、バドミントンと観光の旅


熱心に観戦中の視察団一行

で若手のリム・スイ・キンに優勝を譲ったような試合である。

ハルトノとほかの選手を比べると、まだワンクッション、力に差があるプレーと思っていたのに非常に残念だった。

日本の男子も素早い動きで健闘し、場内をわかせたけれど、シャトルに対するタッチの速さであと一歩というところだった。飯野・土田組が、チャンドラ・クリスチャン組との準々決勝で、好ラリーを随所に見せてくれたのが印象的だった。

結局、男子はインドネシアの力強さと、うま味のマッチしたプレーに、観客は魅了されてしまった。

なぜあんなプレーができるのだろうか、とあきれるばかりである。

一方、女子ダブルスに優勝した、日本の徳田・高田組の気迫は素晴しく、粘りのプレーに徹してスキあれば攻め込むという、蟻地獄に追い込むような試合に感激した。

シングルスでは、湯木さんの芸術品のような華かなプレーと、近藤さんのファイト溢れるガッツプレーが興味をそそった。来年はぜひともギルクスを破って、日本の名声を世界にもっともっと高めてもらいたいものだ。

われわれ一行は、一流プレーヤーの基本に忠実な、素晴しいプレーを目に焼きつけてきたのだから、少しでもプラスの方向へ向って、一流選手にはなれないまでも〝でっかい夢〟を持ってバドミントンというスポーツに、情熱を燃やして行きたいと思う。

まさに〝百聞は一見にしかず〟という心境で胸がいっぱいだ。


試合前の練習風景

ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

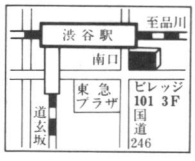
日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分





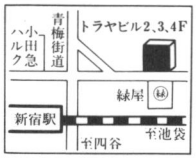


毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時







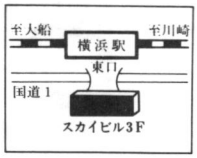
年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時



WINDSOR RACKET SHOP

ノンフィクション・アラカルト[2]
『祭りの声』の面白さ

放送ジャーナリスト　高田正純

前回ノンフィクション（記録文学）についておおざっぱに説明し、すぐれた作品の例として、新藤兼人『祭りの声――あるアメリカ移民の足跡』（岩波新書）をあげた。今回はこれを読みながら、ノンフィクションの特徴を具体的に見てみよう。

『祭りの声』は、映画監督、シナリオ・ライターの著者が、移民としてアメリカに渡った姉の一代記を描いたものである。

姉は家が倒産し、大正十二年、二十歳のとき、カリフォルニアの日系移民に嫁いだ。そして戦争中強制収容所で悲惨な生活を強いられ、戦後は娘や夫の死にもめげず、女手ひとつで子供を育て、激動の時代を生き抜いた。妹は、七十三歳になったいま、望郷の思いにかられつつも、アメリカの土に身を埋める覚悟である。

著者は十二歳のとき、広島県の実家で、姉が結婚して家を出るときに別れ、戦後文通をはじめる。そしてアメリカでのロケを機会に、著者はカリフォルニアのエンシンタスを訪れ、二人は五十三年ぶりに会う。

「姉は黙って、手をさしだした。私も黙って手を握った。ざらざらした固い手だった。

姉　『五十三年』

新藤『お元気で』

姉　『元気、元気、あんたも元気で。このひと私の主人のブラザー、わかる？』

太い声である」

二人は短時間よもやま話をし、別れのときがくる。

「……つかつかと私のほうへやってきた。そして両手で私の手を握りしめた。

涙をいっぱいためていた。ものをいわなかった。そうして逃げるようにして、昭登（姉の長男）の車に帰り、乗ってドアを閉めた。

車は出発した。たちまちカーブに消えた。私たちの車も間もなく出発した。……私は木のない赤ちゃけた山肌を見つめていた。すると涙がでてきた。……こらえようとしたが、拭っても拭っても、涙がとまらないのだ。

すでに陽は低かった。赤ちゃけた山肌を赤々と染めていた。

姉が、結婚して家を出る日、私にさよならをいおうとすると、私がころっと倉の蔭にかくれた、と姉がいった」

二人をつなぐ絆はなんなのか、と考えながら、帰国した著者を追うように、姉の手紙が舞い込んだ。

「兼さん。

53年も会わなんだのに、オンリー3時間では、ものたりない。

何も話す、タイムがなかった。サビシイ気もちに、なった。

あんたの、手のぬくもりが、まだ、のこっておる。

チャンスがあったら、また、会いたい」

ここまで読めばおわかりと思う。すぐれたノンフィクションには、

○読者の共感を呼ぶヒューマンな話

○これを取材し、あるアングル（角度）から料理して提示する方法

○そして、あるひとつの物語として読者に伝える平明でわかりやすい文体

の三つの要素が必要である。

『祭りの声』は、第三者の取材としてではなく、関係者としてたまたまワキ役にいた著者が、長年蓄積した材料を、姉の手紙と自分のナレーション（叙述）を交互に並列しながら物語をすすめた。

日本語を忘れかけた姉の手紙は、「耳でおぼえたアメリカ語と広島弁、ふしぎな手紙であったが、姉の心がじかに伝わってくるものであった」と著者はいっている。くわえて、シナリオ・ライター、監督である著者の、まるで映画の一コマ一コマのようにイメージを転回させる、抑制のきいた平明な文章が、この本を感動深いものにしていると思う。まさしく本書は、ノンフィクションの書き方の教材であり、達意の文章の見本でもある。

新・ガッツ小島の体当り実戦教室



⑬小島一平

まず、確固たる目標を!!

前回まで、私の今までの道程を、各大会の模様を折り込みながら、皆さんに読んでいただいたが、このあたりで、これから強くなりたいと思う人のために、いかにすれば早く上達するか、思うままに綴ってみたいと思う。

まず、何事をするにも、集中力がいかに大事かを、いま一度再考してもらいたい。

長時間の練習なり、連日の厳しい練習が続くと、ついだらけて惰性になってしまったり、自己に負けて練習を休んでしまったり、ということがありはしないだろうか。こういうことを百パーセントなくすのは、大変なことかも知れない。しかし、強くなるためには極力百パーセント近くの努力が、必要かつ重要なことなのだ。

その日その日を常に、新鮮な気持で練習に取り組む。これは並大抵の努力ではとてもできない。いかにしてこれを克服するか、まず目標を的確につかんで自分の頭に叩き込み、それを成し遂げる強い意志を持つことを心がけることだ。目標をしっかり持っている選手は、苦しく厳しい練習にも打ち勝って、新鮮な意欲で飛び込んでいけるのだ。

そして、一度その目標を達した喜びと感激を得た人は、その後の選手生活に必ずや多くのプラスをもたらすことだろう。しかし、脱落していく人々は、そこでまだまだ自らの考えが甘いことを自覚して、辛抱して踏みとどまり、もう一度チャンスが来るのを、じっくり待たなければならない。

ところが、幸運にも一度目標を達成することができると、また欲が出てくる。人間は、より上へ上へと望むのが当たり前なのだ。これで終わりというのはありえないわけで、実は、これが本当の選手生活というか、スポーツマンにとって、これほど辛いことはない。

要するに、負ければ負けたで、なお一層の奮起が必要となり、勝てば勝ったで、皆んなの目標となり、いつ倒されるかわからない。

そこで、強くなりたいと思うならば、よけいなことは一切考えず、バドミントンに集中することだ。

端的に述べるならば、1日24時間の中で、必ず1時間は激しいトレーニングに打ち込み、日一日前進するよう心がけるべきだ。

特に、現在の中・高校生、大学生の基礎体力は著しく低下している。なぜか？　当たり前のことだが、トレーニング不足と集中力の欠如以外の何ものでもない。

ウサギ跳びが膝に悪いからといってやらない。これは一理あり、固いコンクリートの上でやるのは感心しない、しかし床の上や、土の上ではまず大丈夫だ。逃げ出さないで、徐徐に筋肉の力をつけ、克服する意志が大切なのだ。

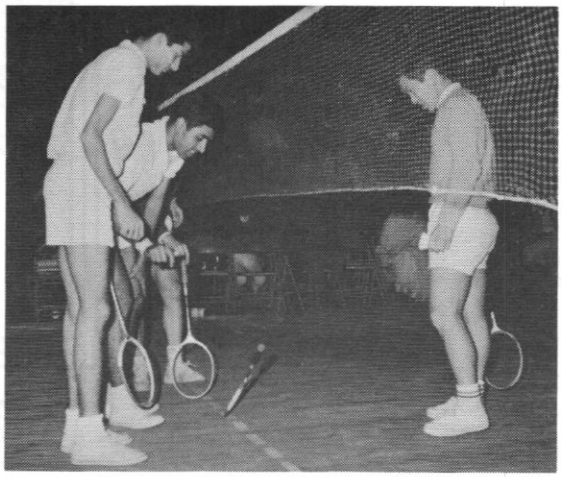
全員が故障無くして、無事選手生活を終えるということは不可能なことで、ケガをした場合は完治させてカムバックすればよいのだから、何事も恐れていてはアウトだ。

指導する方も、バドミントンの激しさ厳し

さは十分知っているはずだから、その選手を大きく伸ばすには、基礎体力だけは誰にも負けないぐらいの迫力を養ってほしいと念願している。

いやなこと、辛いことは誰しもやりたくはない。私も疲れを知らなければ、もっともっと苦しいことができたかも知れない。ごまかしのきかないトレーニング、単調な基本練習、このふたつをいかに克服するかが、選手の質を左右する大きな鍵になると思う。

さて、各大会である程度の納得できる結果を得られるようになると、大きな自信となり、プレーにすべてが表われてくる。詳細に述べるならば、リードされても焦らず、たとえ1ゲームを取られても、確固たる自信を持って2ゲーム目に臨み、必ずや勝利を収められると。


試合前のトスはラケットを回す

とにかく、勝負は勝つことが一番大きなステップになるというわけだ。

今回は最後に、シンガポール・オープンに日本男子として、初の優勝を遂げた時の話を記したいと思う。

ご存知のごとく一年中夏さながらのシンガポールは、準決・決勝ともなると、小さなスタジアムが蒸風呂と化す。

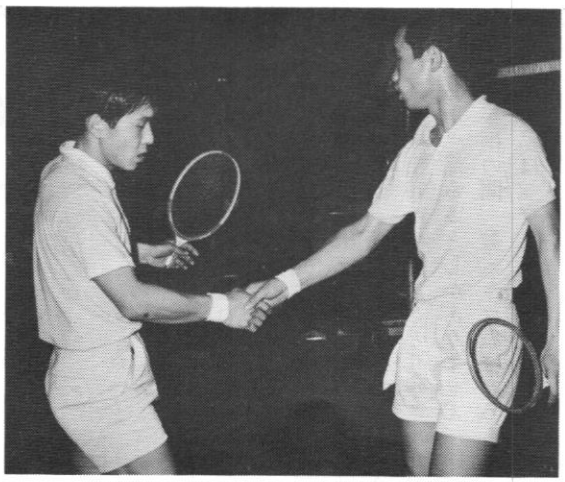
最初に秋山氏とシンガポールに参加した時は、まだまだ海外遠征の経験も浅く、往年の名プレーヤー、ウォン・ペン・スンに「二人はコートを犬のように走り回っているが、とてもじゃないがスタミナがいくらあっても足りない」と注意され、「もっとハイバックで上手に逃げ、同時により強い足腰を作るべきだ。そうすればおのずからフットワークが良くなる」と鋭く指摘されたことがある。そして「また、インパクトの終った直後は脱力せねば」とまことに適当な言葉を受けた。

そして、優勝あるのみと節制に節制を重ね、例えば暴飲暴食をしないとか、水物は控えるとか、簡単なことから実行し、試合に臨んだ。

この頃から、なぜか相手が非常に私に対して、意識を持つようになり、自滅するゲームがふえてきた。ということは、名前が売れ、強いというイメージを相手に与えてきたということだ。これは目に見えない大きな財産となる。

今年の全英においても、話を聞くと、インドネシアの至宝ルディ・ハルトノがカムバックし、昨年の全英、ワールドカップ優勝のフレミング・デルフスとセミファイナルで対戦、デルフスは意識過剰で自滅したということだ。

シンガポール・オープンの優勝は、インドネシアのナンバー3、ヌンヌンと争い、2ゲーム・セッティングの末勝つことができた。


外国の大会決勝でもよく秋山氏と対戦した

が、その時の感激は忘れようもなく、最悪の条件の下での優勝に、ひと味違った興奮を味わうことができた。

皆さんも目標をしっかり持ち、いずれは選手生活の中で、素晴しい感激を味わえるよう祈っている。

（次号へつづく）

エッコのバドミントンライフ

⑪梅野尾悦子

大きな岐路 相沢さんがやめる?

良きパートナーは同時に良きライバルでもあります。似た者同士より、むしろ性格の異なっている方がより効果的かもしれません。

第三者から見た、コート上での私達のプレーぶりからいえば、向こう気が強く、がんこなところは二人共通していますが、繊細さと芯の強さを秘めたタイプが相沢さんで、楽天的で闘志をむき出しにするのが私というふうに対照的です。日常生活では、行動的でこり性で熱しやすくさめやすいけれど、やさしさがあるコンブ(相沢さん)。歩いている時ふと道ばたの珍しい草花や虫を見つけると、その場にしゃがみこんであきずにいつまでも見ているくせがあり、バカ笑いやもらい泣きをするのが私。彼女は果物や野菜、牛乳が嫌いで、私はチーズや油っこい物がにが手でした。

ところが、いざ二人食卓に向かうと、相手がいやな物をがんばって食べてるから私も……という具合に、結局二人共一つ残らず平らげてしまい、いつのまにかすっかり好き嫌いがなくなってしまったのです。

また、トレーニングで、一歩でも一秒でも先になろう、相手がへたばるまでは決して負けないと思いながら手足を動かし続けます。それからもう一つ、ひそかに思っていることがありました。それは、新潟に来て、毎日新しいことを教わり、一つでも見のがすまいとして必死でしたが、理想と私の実力がまだまだほど遠いのが現実でした。体力、技術とも勝る相沢さんに対して、コーチがより高い理想を求めるのは当然で、それだけに鋭い指摘や指導をそばで見聞きしながら、もし彼女が先生から得るものが10であるなら、私は12にしてみようと、彼女が叱られていても同じ緊張で一緒に聞いていたものです。こうしたライバル意識はお互いの刺激となり、励みとなっていったのです。

しかし、充実した毎日は長くは続いてくれず、一つの岐路が訪れました。短大二年の国際学生でフィリピンから帰国して間もなくのことです。監督の阿部先生が、青陵高校を退職され、東京に出られる事態になり、その上、相沢さんまでもが、短大もバドミントンもやらないと言い出したのです。とり残された私には、石川へ帰ることしかありません。新潟に来て一年半の間、数えきれぬほどのあれこれを学んだ私は、今ようやくスポーツとは、私にとってバドミントンとは何かをつかみかけてきたばかりなのです。まして夢にまでみた世界をめざして、ほんの一歩を歩み始めたその矢先で断念するとは、何としても残念であきらめきれませんでした。あちこちと奔走し、焦躁と悶々とした一、二ヵ月が過ぎ、それでも、もし許されるのなら、もっともっと

「自分を表現する」ことと、この土地で学び、苦しみぬいてみたかったのです。同じ道を歩み、理想を追求する友、パートナーがいるこの街を去りたくなかったのです。

「もう一度やってみようよ。阿部先生が理想としたコンブと私のダブルス。誰にもまねのできない相沢・竹中のダブルス。そんなダブルスを二人でがんばってやれるだけやってみたい。せめてオールジャパンまでもいい……」。どうしてもあきらめられず、相沢さんを説得にかかったのです。その年にはまだ、インカレとオールジャパンが残っています。何日かして、学生生活もバドミントンとも縁を切る覚悟でいた彼女の心の奥底には、やはりバドミントンへの情熱が失せていませんでした。もう一度ラケットを握ってくれると約束したのです。インカレまで残り一ヵ月。思いきりがついたらさっそく練習を始めました。金沢へ出かけて合宿をしたり、毎朝のランニングにも心機一転の勢いがみなぎりました。

横浜で開かれたインカレでダブルス初優勝でき、一ヵ月後のオールジャパンでは、これが二人の最後のダブルスになるかもしれないと思いつつ準決・決勝と進み、とうとう二年連続優勝することができました。その蔭には、私が新潟へ来て以来、阿部先生の片腕となって会社後毎日のようにコーチや練習相手をして下さった阿部孚さん、星野さん（現姓金魚さん）、高橋君、その他多勢の人達の暖かい協力があったからこその優勝だったのです。

せめてオールジャパンまでもと覚悟していた二人に少しずつ世界への欲が出てきました。もしオールジャパン優勝がきっかけで、全英選手権に出場できるなら……。理想のダブルス作りにもっともっと挑戦したい。そんな祈りにも似た願いが日に日に強くなっていったのです。

冬のある寒い朝、今の私の状態を象徴しているような日の出に出会いました。

静かな街に、
さざ波のように居並ぶ屋根屋根に、
すずめの声だけが、
冬の寒い朝をつらぬきます。



この中から相沢さんが抜けるなんて!!

今、
朝焼けとともに、
今日が始まろうとしています。
長い長い日の出でした。
雲海の山を金色にして、
雄々しく日が昇ろうとしています。
昨日のことはみんな洗い清めて、
まるでシャカが誕生しそうな、
光々しいさわやかさです。
昨日の収穫と共に、
今日の大きな希望への輝きです。
とうとう日の出です。
余りにも長い長い時間でした。
私の目の前にだけいてくれる、
そんな錯覚をおこしそうな、
不必要なもの、無意味なもの、何もかもを、
この一光が消してしまいそうな、
長い長い日の出でした。
私は、夕陽のもの悲しいまでの美しさを、
知っています。
そして、今、
今日の希望に向かって、
静かに、堂々と、
大空に昇りゆく日の出の美しさを、
初めて知りました。
その美しさの方が私に、
今日一日を力強く激励してくれるものであることを、
初めて知りました。

（次号へつづく）

原口、2年連続の偉業へ布石

男女とも関西勢やや リード

夏に向って 第6回高等学校選抜競技会

3月24・25日の両日、奈良県奈良市中央体育館において、第6回全国高等学校選抜バドミントン競技会が開かれました。

夏の全国大会を占う意味で注目されるこの大会に、各地区の予選を勝ち抜いた精鋭60人の若人が集い、日頃鍛えた技を惜しみなく発揮していました。

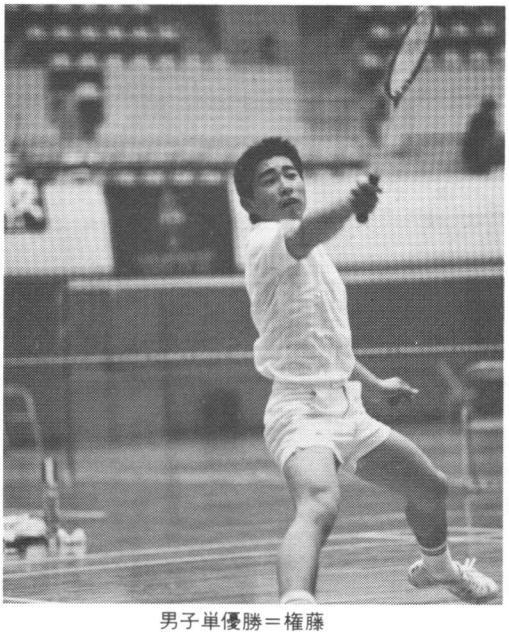
まだまだ成長途上の不安定な時期の中で、昨年の全国大会の優勝校が中心となった。男子の滋賀県、女子の大阪府がそれぞれ団体優勝。今年もレベルの高さをうかがわせました。

個人別に見ると、男子は良くいえば粒揃い、悪くいえばドングリの背比べ。昨年活躍した吉村選手（奈良）、本石選手（熊本）が頭一つリードしているようだが、迫力に欠けるプレーで取りこぼしが目につきました。僅差で続くのがダブルスに優勝した山形の須貝、五十嵐選手。団体優勝に貢献した滋賀の保科、横田選手。鳥取の中居選手もシングルスはなかなかやりそう。1年生にも、シングルスに優勝したウェスタングリップの熊本の権藤選手をはじめ、奈良の貴田選手、栃木の馬場選手など好選手が多く楽しみな存在。

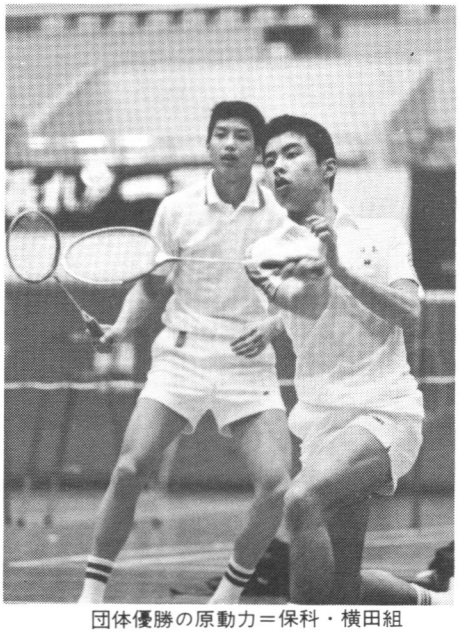
女子は、昨年2年生で全国大会を制した原口選手（大阪）、四条畷学園の後輩の北田選手が独走状態。

熊本の相良、高峯選手、富山の三田選手。柳木の上野選手、奈良の横田選手、山形の岡田選手、高知の田村選手らにいま一つがんばってほしいところ。

いずれにしても、これから夏までの間に大きく変化する可能性が大であり、若い力のチャレンジ精神に期待が持たれます。



男子単優勝＝権藤



団体優勝の原動力＝保科・横田組

試合の結果は次の通りです。

▽男子団体1回戦

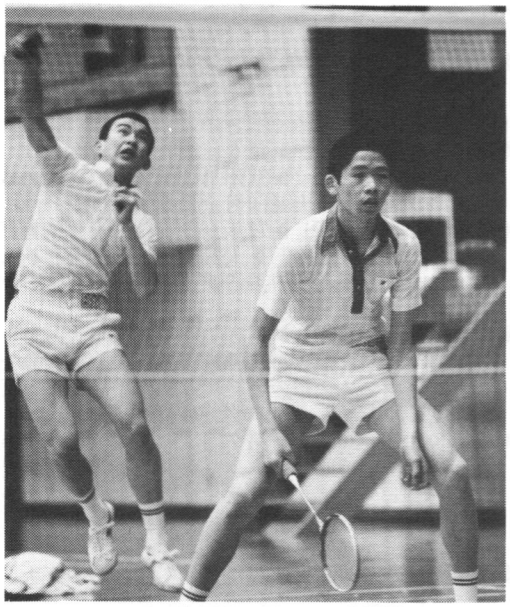
山形県 2—1 北海道
鳥取県 2—1 徳島県

▽同2回戦

栃木県 2—1 三重県
熊本県 3—0 富山県
滋賀県 2—1 山形県
奈良県 2—1 鳥取県

▽同準決勝

滋賀県 2—1 栃木県
保科 横田 2（15—3 15—9）0 小野口 坂本
滝川 0（9—15 5—15）2 馬場
保科 2（18—15 17—15）0 小野口
奈良県 2—1 熊本県
吉村 虎枝 2（17—16 11—15 15—4）1 本石 上村



男子複優勝＝須貝・五十嵐組



女子単優勝＝原口

▽男子団体1回戦
保科 2 — 0 岐阜県
大阪府 0 — 3 吉村 山形県
岡山県 0 — 3 高知県 奈良県
栃木県 0 — 3 北海道
熊本県 0 — 3 岡山県
大阪府 1 — 2 富山県
高峯 川添 2 — 0 田村 寺田
熊本県 0 — 2 高知県
相良 2 — 0 清藤
大阪府 0 — 2 栃木県
北田 合川 2 — 0 高田

▽同2回戦
貴田 0 — 2 権藤
吉村 2 — 0 本石
栃木県 1 — 2 熊本県
小野口 坂本 2 — 0 本村 上石
馬場 0 — 2 権藤
小野口 2 — 0 本石
滋賀県 1 — 2 奈良県
保科 横田 2 — 0 吉村 虎枝
滝川 1 — 2 貴田

▽同3位決定戦
原口 2 — 0 海賀
高知県 1 — 2 栃木県
田村 寺田 2 — 0 上野 高田
清藤 1 — 2 海賀
田村 2 — 0 上野
北田 合川 2 — 0 高峯 川添
原口 2 — 0 相良

▽男子ダブルス準決勝
須貝 五十嵐 2 — 0 吉村 虎枝（山形 奈良）
保科 横田 2 — 0 小野口 坂本（滋賀 栃木）
吉村 虎枝 2 — 0 小野口 坂本
保科 五十嵐 2 — 0 横田
須貝 五十嵐 2 — 0 保科 横田
横田 佐藤 2 — 0 上野 高田（奈良 栃木）

▽男子シングルス準決勝
北田 合川 2 — 0 田村 寺田（高知）
田村 寺田 2 — 0 上野 高田
北田 合川 2 — 0 横田 佐藤
高崎 2 — 0 安福（富山 三重）
権藤 2 — 0 貴田（熊本 奈良）
貴田 2 — 0 安福

▽女子団体1回戦
保科 2 — 0 吉村
岡山県 0 — 3 岐阜県
大阪府 0 — 3 山形県
高知県 0 — 3 奈良県
栃木県 0 — 3 北海道
熊本県 0 — 3 岡山県
大阪府 1 — 2 富山県
高峯 川添 2 — 0 田村 寺田
熊本県 0 — 2 高知県
相良 2 — 0 清藤
大阪府 0 — 2 栃木県
北田 合川 2 — 0 高田

▽同2回戦
貴田 0 — 2 権藤
吉村 2 — 0 本石
栃木県 1 — 2 熊本県
小野口 坂本 2 — 0 本村 上石
馬場 0 — 2 権藤
小野口 2 — 0 本石
滋賀県 1 — 2 奈良県
保科 横田 2 — 0 吉村 虎枝
滝川 1 — 2 貴田

▽同3位決定戦
原口 2 — 0 海賀
高知県 1 — 2 栃木県
田村 寺田 2 — 0 上野 高田
清藤 1 — 2 海賀
田村 2 — 0 上野
北田 合川 2 — 0 高峯 川添
原口 2 — 0 相良

▽男子ダブルス準決勝
須貝 五十嵐 2 — 0 吉村 虎枝（山形 奈良）
保科 横田 2 — 0 小野口 坂本（滋賀 栃木）
吉村 虎枝 2 — 0 小野口 坂本
保科 五十嵐 2 — 0 横田
須貝 五十嵐 2 — 0 保科 横田
横田 佐藤 2 — 0 上野 高田（奈良 栃木）

▽男子シングルス準決勝
北田 合川 2 — 0 田村 寺田（高知）
田村 寺田 2 — 0 上野 高田
北田 合川 2 — 0 横田 佐藤
高崎 2 — 0 安福（富山 三重）
権藤 2 — 0 貴田（熊本 奈良）
貴田 2 — 0 安福

▽女子シングルス準決勝
大庭 2 — 1 清藤（北海 高知）
原口 2 — 0 相良（大阪 熊本）
相良 2 — 0 清藤
原口 2 — 0 大庭

▽同決勝
原口 2 — 0 大庭

▽同3位決定戦
相良 2 — 0 清藤

▽同決勝
権藤 2 — 0 高崎

▽同3位決定戦
貴田 2 — 0 安福

▽同決勝
北田 合川 2 — 0 田村 寺田（大阪 高知）
田村 寺田 2 — 0 上野 高田
北田 合川 2 — 0 横田 佐藤
高崎 2 — 0 安福（富山 三重）
権藤 2 — 0 貴田（熊本 奈良）
貴田 2 — 0 安福

▽同3位決定戦
原口 2 — 0 相良（大阪 熊本）

▽同決勝
原口 2 — 0 大庭

バックナンバー一覧表

お申し込みはハガキで　シメキリ＝8月31日

本誌バックナンバーの最新リストができあがりました。本誌はそろえて保存すれば**「バドミントンの百科事典」**となります。専用合本バインダーをご利用のうえ、有効にご利用ください。

◆**55号**＝220円 ▶第5回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶小島一平の実戦教室▶中山紀子・私の歩んできた道

◆**64号**＝220円 ▶第4回国際競技大会▶湯木ギルクスに快勝▶英国強し▶第6回全日本女子チャンピオンズトーナメント

◆**65号**＝220円 ▶小笠原母島のバドミントン▶デンマークオープン▶全日本総合団体戦

◆**69号**＝220円 ▶ユ杯詳報▶湯木、中山マイペース▶相沢・竹中不調▶日本必死の防戦も及ばず

◆**70号**＝220円 ▶インターハイ▶植野女子三冠に輝く▶男子は林田が制す▶東日本学生選手権

◆**71号**＝220円 ▶トマス杯東地区予選日本対香港▶日本完勝▶土田初出場で重責を立派に果たす

◆**72号**＝220円 ▶全日本社会人選手権▶小島・湯木が優勝▶全国の指導者に望むこと

◆**73号**＝220円 ▶第4回日中競技会▶ヤングパワー林詩銓▶はつらつ劉霞▶中国ランキング

◆**74号**＝220円 ▶75年全日本総合選手権▶小島不滅の金字塔▶湯木キズだらけの四連勝▶徳田白熱の善戦

◆**75号**＝220円 ▶第30回国民体育大会▶神奈川が2年ぶりに10度目の栄冠▶全日本学生選手権

◆**76号**＝220円 ▶トマス杯アジア東地区決勝日本対韓国▶日本9―0で完勝▶第5回国際競技大会

◆**77号**＝220円 ▶全日本総合選手権団体戦▶第7回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶ジャカルタの新聞とユーバー杯

◆**78号**＝300円 ▶全英選手権大会▶ハルトノ8回目の栄冠▶ギルクスは三冠王▶第1回アジア招待大会▶スミラト中国勢を連破して優勝

◆**81号**＝300円 ▶学生大会集

◆**82号**＝300円 インターハイ▶金沢市工、四条畷が連勝▶男子宍戸、女子石川が栄冠▶全国中学生大会▶全日本教職員選手権▶京都家庭婦人大会▶長崎家庭婦人大会

◆**83号**＝300円 ▶76年オールスター男子ダブルス▶全日本社会人選手権▶シャトルコックの研究

◆**84号**＝300円 ▶石川県家庭婦人大会▶全日本社会人選手権上位戦記録▶良好書紹介

◆**85号**＝300円 ▶全日本学生選手権▶第31回国民体育大会▶第3回全日本家庭婦人大会▶渋谷バードクラブ紹介

◆**86号**＝300円 ▶76年総決算号

◆**87号**＝300円 ▶日本協会の使命と今後の課題▶第5回日中大会報告▶大阪中央ＹＭＣＡクラブ紹介

◆**88号**＝300円 ▶76年全日本総合選手権写真集▶しらぎくクラブ紹介

◆**89号**＝300円 ▶76年全日本総合選手権全記録▶直撃インタビュー小島一平選手は語る▶サントリーチームを訪ねて▶シャトルコックの製造工程

以下はモデルチェンジによる（増ページのものもあります）刷新号で、それぞれ通巻番号でなく、○年○月号とお申し込みください。

◆**77年4月号**＝300円 ▶第6回国際競技大会▶プリついにベールをぬぐ▶欧州男子、スマッシュの威力▶第5回全日本実業団対全日本学生（増ページ）

◆**78年1月号**＝300円 ▶77年全日本総合選手権▶銭谷Ｖ2“実力の証明”▶大器開花近藤初優勝▶飯野・土田組2年ぶりの美酒▶連載＝小島一平、われらのクラブ

◆**78年2月号**＝300円 ▶創刊100号記念増大号▶第7回国際競技大会・対抗戦▶巧者コーペン近藤を降す▶デルフス余裕の完勝▶連載＝小島一平、栂野尾悦子、われらのクラブ、分析シリーズ

◆**78年3月号**＝300円 ▶第7回国際競技大会・東京大会▶デルフス敗れる▶コーペンの貫禄勝ち▶脅威4メートルダブルス▶新星植野・米倉が誕生▶連載＝小島一平、栂野尾悦子、われらのクラブ、分析シリーズ（増ページ）

◆**78年4月号**＝300円 ▶77年全日本総合選手権大会団体戦▶河崎ラケット余裕の完勝▶徳田を軸にサントリーが優勝▶シャトルを長持ちさせるコツ▶連載＝小島一平、栂野尾悦子、分析シリーズ▶コラム＝高田正純、寺田太郎（増ページ）

◆**別冊①◆ユーバー杯への道**＝1000円
Ａ5判128ページ、うちカラー16ページ、第7回ユーバー杯大会（ジャカルタ）全記録をはじめ、観戦記、奪還策等を満載。

◆**別冊②◆ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック**＝500円　Ｂ5判48ページ、うちカラー4ページ。豊富な連続写真と詳しい解説、美しいグラフで構成したすぐ役立つもの。Ｓ・プリ、Ｆ・デルフス、Ｂ・フローマン、Ｍ・ロックウッド、チュンチュン、ワジュディらのプレーを小島、栂野尾、池田、銭谷、尾崎、飯野、土田、湯木、栂野尾（悦）がわかりやすく解説。

バックナンバー、別冊のお申込みは、他の用件とは別に、必ずハガキで下記あてお申し込みください。代金は、現品到着後、当方から同封の振替用紙で1週間以内にお振り込み願います。送料は当方で負担いたします。

〈申込先〉
〒155　東京都渋谷区神南1－1－1
岸記念体育会館内・**バドミントン界編集部**
（なお、発送は集中方式となりますので、2～3週間程度かかります。また、このリストの有効期限は昭和53年8月31日までです）

演劇随想2

「春の目覚め」

放送作家　寺田太郎

春になるとつぎつぎに樹の花、草の花が咲き、そして散って行く。人びとは軽装をまとい、身の動きも軽く、心も弾むのを覚える時である。

季節の「春」は毎年その時が来ると必ず巡って来るが、私たちの人生においては「春」はただ一度しか訪れない。それが「思春期」と呼ばれるもので、およそ十四・五歳から十八・九歳に至る。精神的にも肉体的にも大きな変化をみる大切な期間なのである。

それを主題にして、ドイツの劇作家フランツ・ウェデキント（一八六四～一九一六）が三幕十九場からなる長篇戯曲「春の目覚め」を書いたのは、一八九一年のことだった。

彼の育った少年時代、そして作家に生長した彼の周囲にある思春期の少年少女に対する教育は、性をまったく抑圧して、ただただ勉強だけを強制していたのであった。性教育がまったく抑圧されているために、少年少女が不幸な破滅に陥ることがあるのに対して、ウェデキントは作品をもって抗議したのである……厳しく、そして高い詩情をこめて。

ウェンドラという、ようやく十四歳の春を迎えた少女がある。彼女にとって「なぜ子供が生れるか」というのは大きな疑問である。だが母親は、問いつめられた結果、以下のように言い逃れるほかはなかった。「子供が生れるにはね……結婚した男の人をね……愛さなければいけないんですよ。……いいかい。愛さなければいけないんですよ。たった一人の人を愛さなければいけないんですよ。心の底から愛して……さあ、何といったらいいだろうね。つまりね、お前位いの年頃ではまだ出来ないような、そういう愛し方をしなけりゃいけないのですよ。……さあ、分ったでしょう。」

だが、その次の乾草小屋の場で、ウェンドラは同級生の秀才メルヒオルの本能的な行為によって犯されてしまうのだ。「あらキスしちゃ嫌よ、メルヒオル……キスしちゃ嫌よ。キスをすると……愛していることになるのよ……いやだったら。いやよ……。」本能的に少年を拒否しながらも、これが妊娠につながろうとは彼女は思っていなかった。

やがて結果が現われ、彼女は床に就く。医者を戸口まで送って行った母親は、涙を流して戻って来る。

「なぜお母さんはそんなに悲しそうに泣いてらっしゃるの？」

「……お前は赤ちゃんができたんですよ。ああ、お前は一体なぜこんなことをしてお呉れだろうか。」

「私、なんにもしなくってよ。」

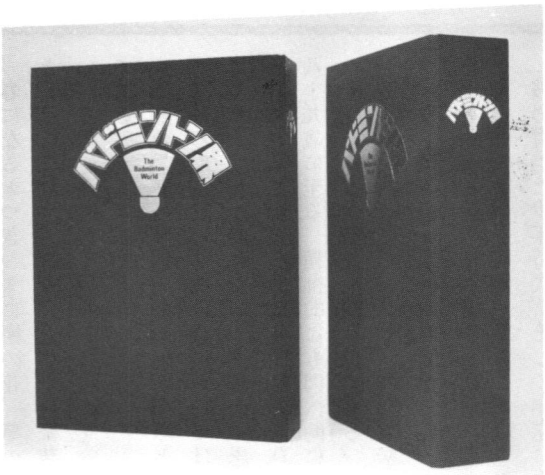
「ああ、ほんとにひとこと言ってあげればよかったんだね……ああ、ウェンドラ……。」

しかしウェンドラは、まだ誰をも愛してはいないのだった。

やがて彼女は、母に与えられた堕胎剤のために死ぬ。一方、メルヒオルは退学させられて感化院に送られ、ここを脱走し、死を決意して墓地をさまよううち、はからずもウェンドラの墓を月の下に発見する……。

「春の目覚め」は当時の官権や教育界の圧迫をうけたので、その上演がはじめて許可されたのは執筆から数えて十五年後のことだ。彼は俳優でもあったので、初演では「仮面の人」という役で出演している。

こんにちでもこの作品は世界各国で上演されている。ここに扱われた問題は今日でも決して解放し尽されたわけではないし、作品には前述のように厳しさのなかに詩的な香りが漂っているからである。じつは、私自身も、講座を持っているある学校で、十代の少年少女を中心にこの作品を上演したのは、まだ昨年のことであった。



バドミントン界専用

合本バインダー

定価・500円

3月中旬から品切れとなり、ご注文の皆様にはお待ちいただいておりましたが、5月1日に第3版ができあがりました。順次お送りしております。

穴あけ不要・かんたんに・美しく保存

「バドミントン界」は読捨ての雑誌ではありません。毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科事典となるものです。

そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今回製作したものは、表紙の新しいデザインにあわせた写真のようなシャレたものです。

表紙は濃いブルーの特殊レザーを使用し、本誌と同じデザインを銀パクで押したものです。丈夫で長い間の保存に耐えることができます。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末に綴じ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

バドミントン界編集部

（送料1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上700円）

年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「**バドミントン界**」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。バドミントン界は一部定価300円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間3600円のところを3000円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、2800円となります。

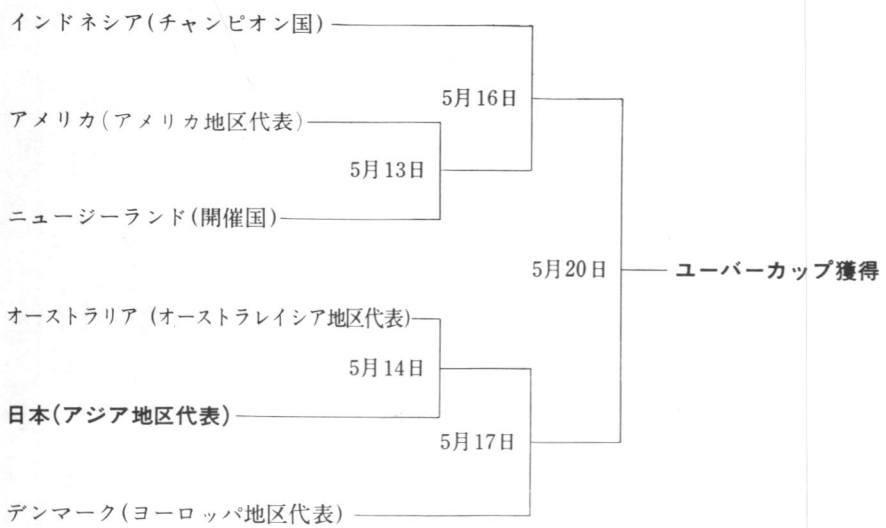
お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月15日に発行と同時にお送りいたします。

購読期間は1年ごとの更新となりますので、6ヵ月や2年間といった変則的なお申し込みはご遠慮ねがいます。

また、ヨネックススポーツ、河崎ラケットの特約スポーツ店、ラケットショップ元町、ラケットショップフジ、ジャワ商会、サンスポーツ、アサヒスポーツ各店でも予約をお取り扱いしておりますので、各店にご照会ください。

ユーバー杯インターゾーン組合せ決まる
日本は準決勝で
強豪デンマークと対戦

ユーバー杯大会インターゾーン組合せ



第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会は、5月にニュージーランドのオークランドで開催されるが、インターゾーン組合せが上図のとおり、最終的に決定した。

日本は1回戦でオーストラリアと対戦するが、順当に勝ち上るものと思われ、準決勝で、ヨーロッパ・ゾーン代表の強豪デンマークと対戦する。

デンマークはヨーロッパゾーン決勝で、イングランドに5―2と快勝。リーン・コーペンを中心に栄冠をねらっており、日本との一戦は激戦が予想される。

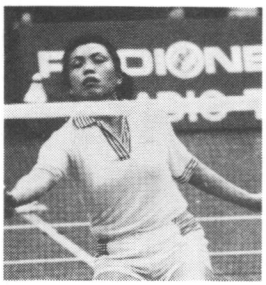
チャンピオン国インドネシアは、連覇をねらって登場するが、全英選手権では、若手ナンバーワンのベラワティがデンマークのボルグストロムに、ダマヤンティがやはりデンマークのニールセンに敗れており、かつてのミナルニのような切り札がいないだけに苦しい。

インドネシア、日本、デンマークがほぼ同列に並んでいるといったところか。

前回ジャカルタ大会のときは、インドネシアの猛烈な応援に悩まされたが、今回は、それほどひどいということはないまでも、距離的に近いため、多くの応援団がかけつけることも考えられる。

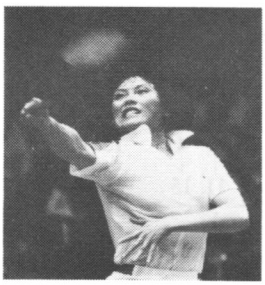
日本は、全英複の1、2位と単の2、3位を占めており、数字的には有利だが、アジア地区決勝の対マレーシア戦で楽勝を予想されたものの、いきなりシングルスに連敗し冷汗をかかされた。やはりコンディショニングと精神面の充実が欠かせない。

いずれにしても、万全の状態で大会にのぞみ、ユーバー杯を奪還してほしいものである。

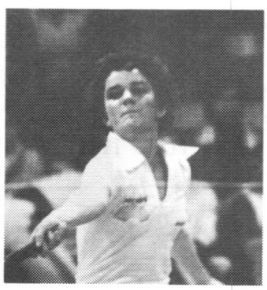

湯木(日本)


ベラワティ(インドネシア)


コーペン(デンマーク)


徳田(日本)


マスリ(インドネシア)


ニールセン(デンマーク)

昭和52年度神奈川県総合バドミントン選手権大会

小島、笠井の追撃ふりきり優勝

"20年コンビ"杉田夫妻快勝す

神奈川県総合バドミントン選手権大会は3月19日午前9時から、県立体育センターで男子、女子、混合の各ダブルス戦を行った。男子は国体選手の宮川・笠井組が順当に力を発揮し、女子も混戦の中から、関東自工の遠藤・砂川組が絶妙のコンビプレーで共に初優勝。混合は、20年以上もコンビを組む杉田夫妻が、いかんなくテクニシャンぶりを見せて快勝した。また女子では、ママさんコンビの鈴木・瀬戸組が、家庭婦人として初めてベスト8に進出、注目を集めた。

【ダブルス】

▽男子準々決勝

金子・平（横浜市役所）　2―0　清水・森下（明治生命・慶大）

宮川・笠井（ラケットショップ元町・関東自工）　2―0　渡辺・斉藤（横浜市役所）

鈴木・鎌田（三菱横浜造船所）　2―1　山崎・高橋（関東自工）

杉田・瀬戸（立野高教員・産業能率短大）　2―0　小山・西沢（関東学院大）

▽同準決勝

宮川・笠井　2（15―5、15―10）0　金子・平

鈴木・鎌田　2（15―8、15―10）0　杉田・瀬戸

▽同決勝

宮川・笠井　2（15―4、15―6）0　鈴木・鎌田

▽女子準々決勝

遠藤・砂川（関東自工）　2―0　鈴木・瀬戸（野庭ク）

宮本・高井（北辰電機）　2―0　佐藤・坂田（日立戸塚）

杉田・松田（コロムビア・大妻女子短大）　2―0　寺本・渡部（新日鉄・陽光台小教員）

小松原・潮崎（関東自工）　2―0　石田・長田（三菱横浜造船所）

▽同準決勝

遠藤・砂川　2（9―15、15―8、15―3）1　宮本・高井

杉田・瀬戸　2（15―5、15―0）0　小松原・潮崎

▽同決勝

遠藤・砂川　2（15―8、15―8）0　杉田・松田

▽混合準々決勝

斧・佐藤（日立戸塚）　2―1　高橋・遠藤（関東自工）

笠井・潮崎（関東自工）　2―0　鎌田・石田（三菱横浜造船所）

山崎・砂川（関東自工）　2―1　鈴木・松田（三菱横浜造船所・大妻女子短大）

杉田夫妻（立野高教員・コロムビア）　2―0　瀬戸・鈴木（産業能率短大・野庭クラブ）

▽同準決勝

笠井・潮崎　2（15―3、15―9）0　斧・佐藤

杉田夫妻　2（15―11、15―10）0　山崎・砂川

▽同決勝

杉田夫妻　2（15―4、15―4）0　笠井・潮崎

同大会シングルスは3月26日、県立体育センターで男子、女子のシングルス戦が行われた。

男子決勝は予想通り小島（RS元町）―笠井（関東自工）の対戦となった。互いに1ゲームずつ取り、白熱したゲーム展開となったが、第1ゲームから全力でとばした笠井は、第3ゲーム、小島にマッチポイントを握られたところで足を痛め、惜しくも棄権した。女子は若手の佐藤（日立戸塚）が、寺本（新日鉄）に食い下がったが、寺本のうまさにかわされ、第2ゲームにゲームポイントを先取したものの逆転された。

【シングルス】

▽男子準々決勝

小島（ラケットショップ元町）　2―0　坂井（横浜市役所）

鈴木（三菱重工横浜）　2―1　田島（教職員）

辻（ヨネックス）　2―0　高橋（関東自工）

笠井（関東自工）　2―0　渡辺（横浜市役所）

▽同準決勝

小島　不戦勝　鈴木

笠井　2（15―8、15―9）0　辻

▽同決勝

小島　2（4―15、15―11）1　笠井　棄権

▽女子準々決勝

砂川（関東自工）　2―0　宮本（北辰電機）

寺本　2―0　杉田（新日鉄）

高井　2―1　遠藤（北辰電機）

佐藤　2―0　小松原（日立戸塚）

▽同準決勝

寺本　2（11―3、11―1）0　砂川

佐藤　2（11―7、11―3）0　高井

▽同決勝

寺本　2（11―2、12―11）0　佐藤

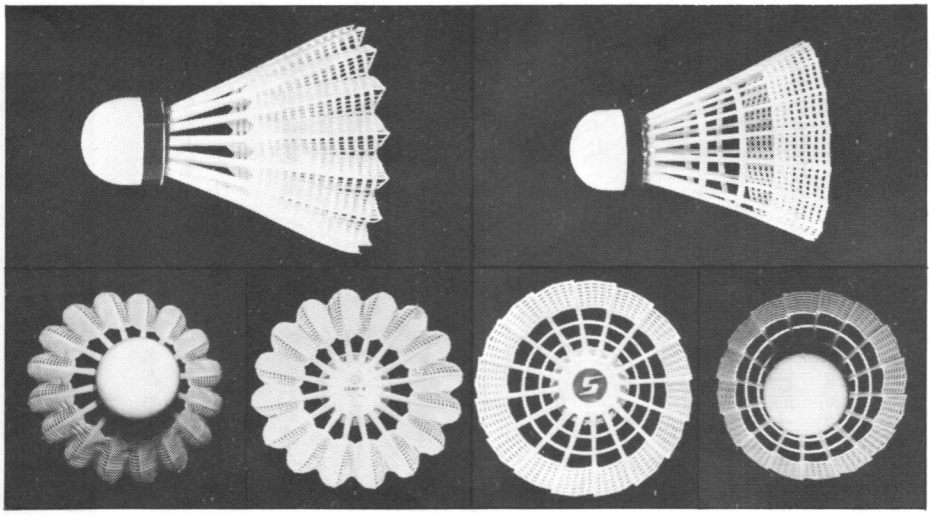
（神奈川県協会広報委員会）

日本バドミントン協会検定審査合格球
合成シャトルの形状

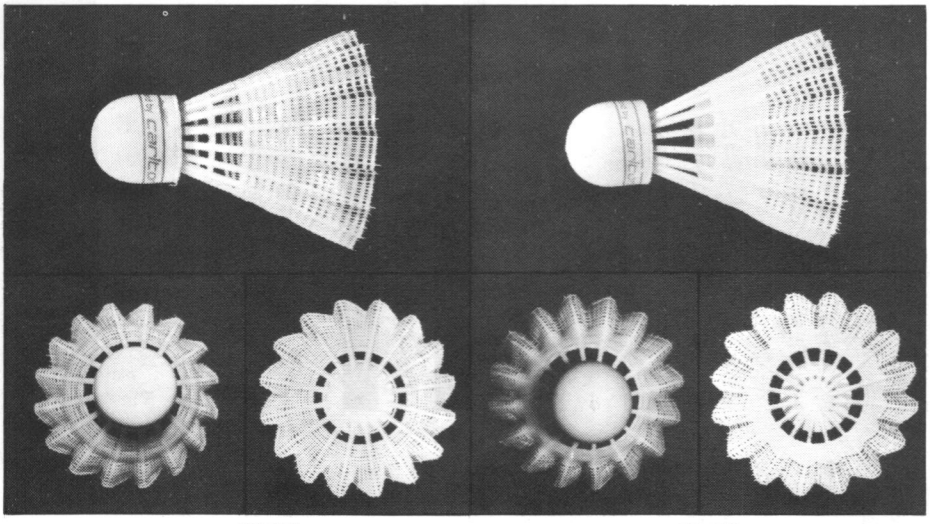
先月号で「合成シャトル研究調査報告」（協会用具委員会）を掲載いたしましたが、スペースの都合で、それぞれの写真をご紹介することができませんでした。

そこで各メーカーのご協力をいただき、昭和53年度日本バドミントン協会用具検定会に審査合格した合成シャトルの写真をここに掲載いたします。

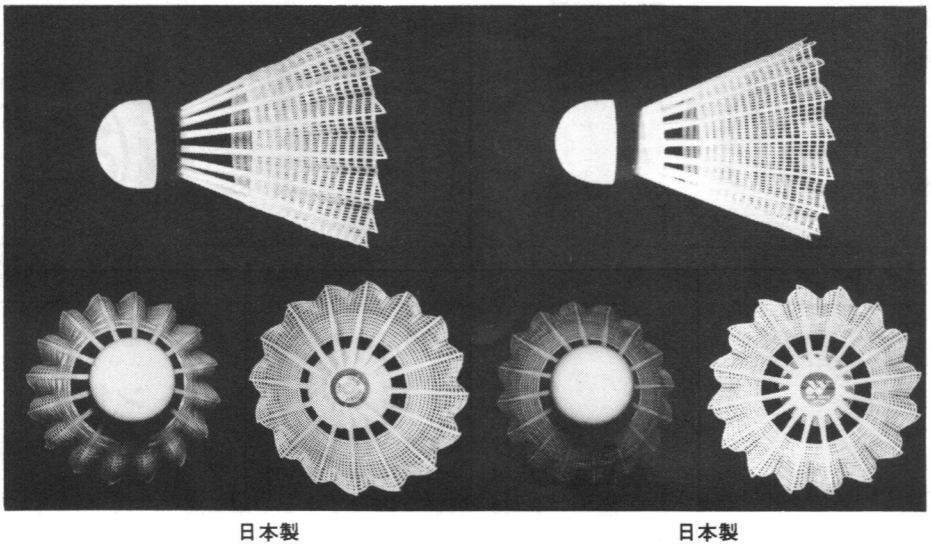
なお1種類につきましては、〆切までに見本が編集部に届かず、結果的に6種類のみご紹介いたします。



日本製　　日本製



英国製　　英国製



日本製　　日本製

昭和53年度大会カレンダー

▽**国内大会**

第28回全日本実業団バドミントン選手権大会（6月13日～18日・東京）

第29回全国高等学校バドミントン選手権大会（8月3日～8日・会津若松市）

第17回全日本教職員バドミントン選手権大会（8月10日～14日・仙台市）

第8回全国中学生バドミントン選手権大会（8月18日～20日・名古屋市）

第21回全日本社会人バドミントン選手権大会（8月26日～29日・大津市）

全日本バドミントンオールスターダブルス'78（9月10日・東京）

第8回アジア競技大会バドミントン競技選手選考会（9月15日～17日・東京）

第33回国民体育大会バドミントン競技（10月16日～19日・塩尻市）

第29回全日本学生バドミントン選手権大会（10月16日～22日・名古屋市）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・個人戦（11月14日～19日・東京）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・団体戦（昭和54年2月17日～18日・東京）

第7回全国高等学校選抜バドミントン競技会（昭和54年3月）

▽**国際大会（国内）**

第6回日中バドミントン競技大会（6月27日～7月11日）

日韓高校バドミントン交歓競技大会（8月20日～25日・関東京浜地区）

第8回国際バドミントン競技大会（昭和54年1月中旬～下旬）

▽**国際大会（国外）**

第8回女子バドミントン世界選手権（ユーバー杯）大会アジア地区決勝戦（4月8日・クアラルンプール）

第3回アジア招待バドミントン競技大会（4月15日～25日・北京）

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会（5月13日～20日・ニュージーランド・オークランド）

第8回アジア競技大会（12月9日～20日・バンコク）

第27回デンマークオープンバドミントン選手権大会（昭和54年3月7日～10日・コペンハーゲン）

第69回全英バドミントン選手権大会（昭和54年3月21日～24日・ウェンブレー）

編集室から

◆今月号は、全英選手権を中心にお届けします。グラフもカラーで増ページしてみました。皆さんに世界の強豪たちのフォームをじっくり見ていただきます。ハルトノはもちろん、今まで写真がなく、ベールに包まれていたリム・スイ・キン。〝インドの星〟プラカシュ。デンマークの成長株M・F・ハンセン、J・ヘレディ。女子は世界の一流がほとんど来日していますが、インドネシアのベラワティ、イメルダなどは、まだご存知の方も少ないでしょう。

◆いつも女子の活躍の陰に隠れ、存在が薄い日本男子ですが、今大会は飯野・土田組の健闘が光っていました。〝世界の五指〟まであと一歩。来年はベスト4をめざしてがんばってほしいものです。

◆入稿の締切り直前に、〝日本女子、ユ杯インターゾーンへ進出〟のニュースが入りました。本誌が出る頃には、ニュージランドで熱戦が繰り広げられていることでしょう。〝ユ杯奪還〟を皆さんと一緒に祈りたいものです。

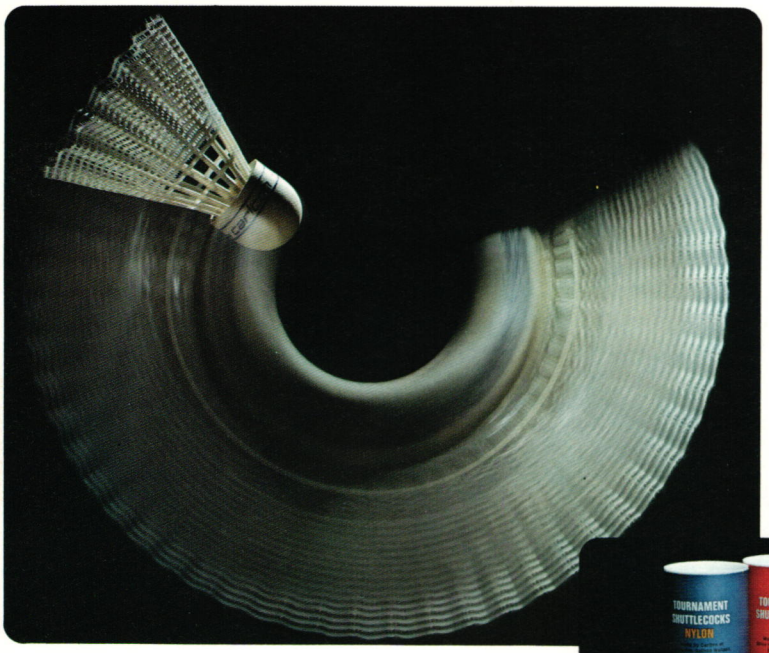
◆今回は誌面の都合でお休みいたしますが、2月号から始った「分析シリーズ」いかがでしょうか、データが細かいため、筆者もだいぶ悩んでおられるようです。励ましの言葉や、ご意見ご感想がありましたら、編集部へどうぞ。

バドミントン界 通巻第103号 1978年5月号 定価 300円

昭和53年5月15日発行
編集人／赤星 三樹
発行人／秦 浩

©1978 無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1 岸記念体育会館
電話 03－467－3111(代表) 内線351
振替 東京5－9525(バドミントン界編集部)



世界のカールトン

carlton

●PHOTO・左より——
ニュートーナメント、インターナショナル、クラブ



カールトンは水鳥？

ナイロンシャトルの時代は、もう始まっています。

カールトンのシャトルは、ガチョウ羽根の長所を完璧にとり入れ、スカート(羽根)の特殊構造と固めのベース(頭部)は、ネットぎわのすばやいターンオーバーと正確なスマッシュ、スピードを生むよう設計されております。さらに、水鳥シャトルよりも優れた2つの点、すなわち水鳥シャトルより安い価格と数倍もの耐久性に関しては、これ以上述べる必要はないでしょう。

ニュートーナメント
1個 ￥280

世界一の消費量を誇るナイロン・シャトルのベストセラー。水鳥球の数倍の耐久性をもち、しかも、最も飛び方が似ていると評価されています。この絶大な定評は他の追従を許しません。

インターナショナル
1個 ￥240

国産品とは比較にならないほど優れた性能をもち、しかも値段は国産品と変りません。耐久性はニュートーナメントよりも丈夫です。初・中級者のための試合・練習球としてどうぞ。

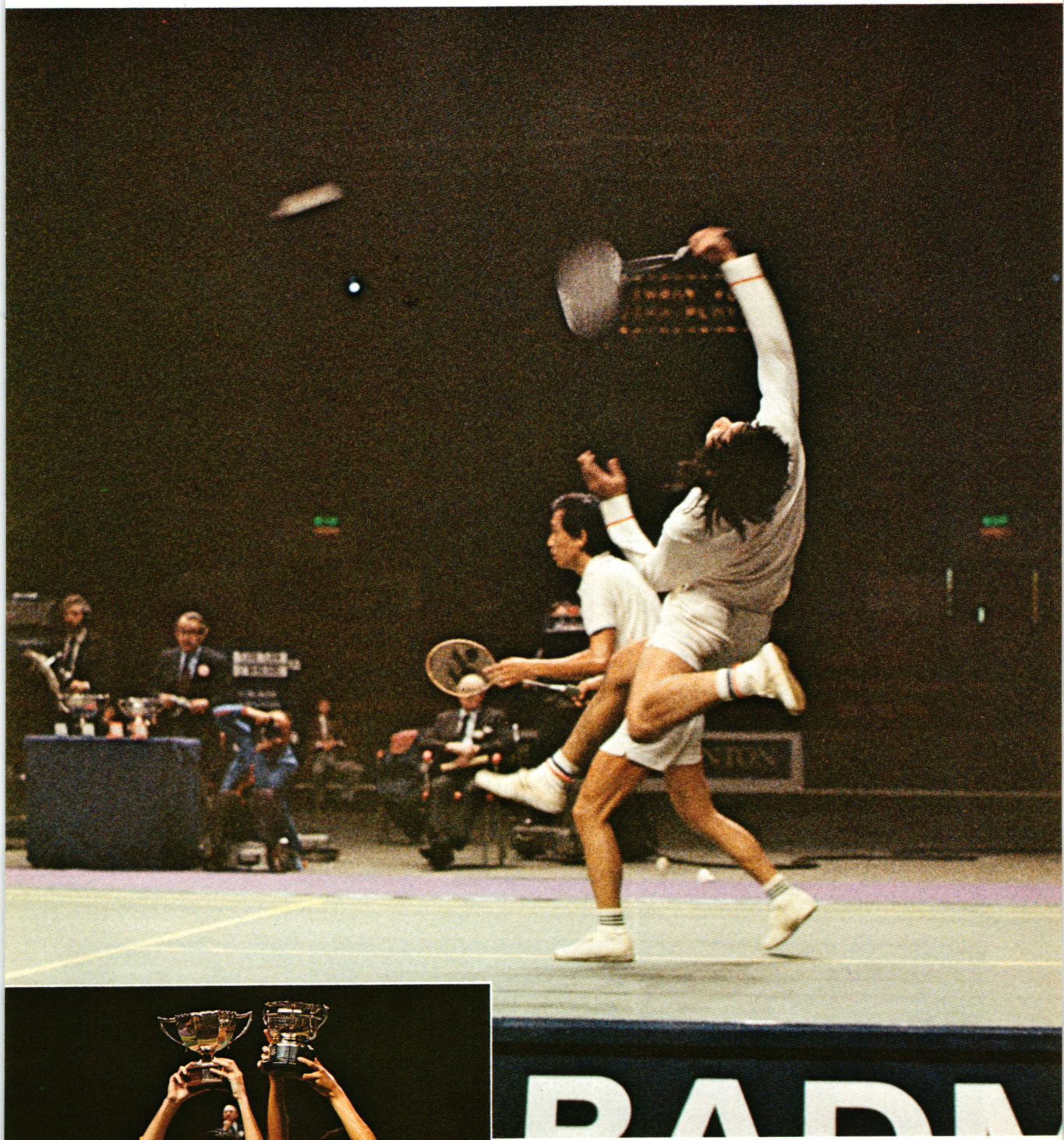
クラブ
1個 ￥200

数多いナイロン・シャトルの中でも、抜群の耐久性をもち、寒期でも優れた性能を発揮します。クラブは非常に長もちする、経済的なシャトルです。学校の授業や初心者の練習に最適です。



総発売元 メトロレジャー株式会社 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL:(03)833-3661(代)

チュン・チュン、ワジュディ組　圧勝で4度目





ALL-ENGLAND
GENTLEMEN'S DOUBLES

MR. TJUN TJUN
&
MR. JOHAN WAHJUDI



ALL-ENGLAND LADIES DOUBLES

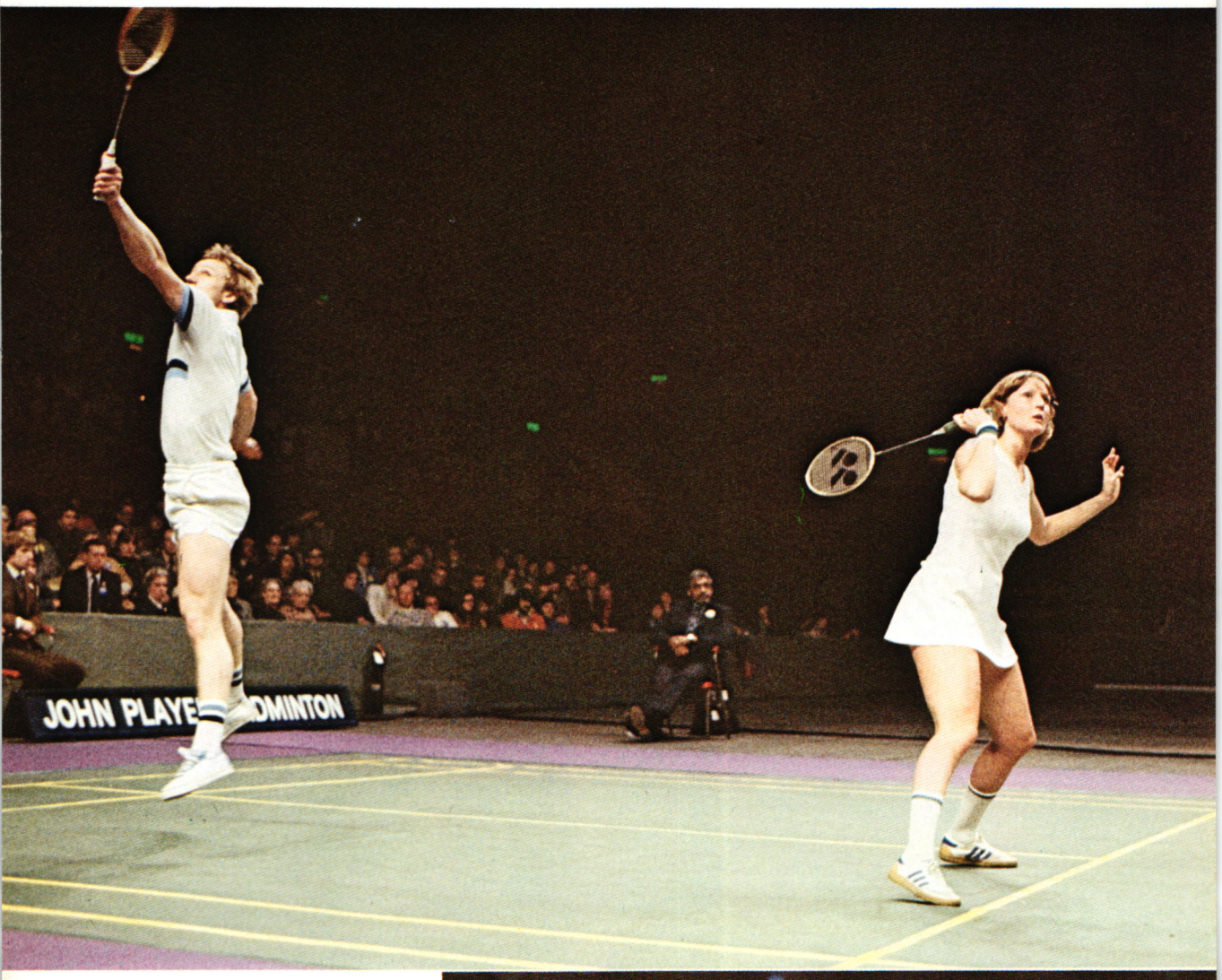
MISS A. TOKUDA & MISS M. TAKADA

MISS E. UENO & MISS Y. YONEKURA



徳田・高田組、植野・米倉組決勝へ

トレジェット・ペリー組　華やかに優勝



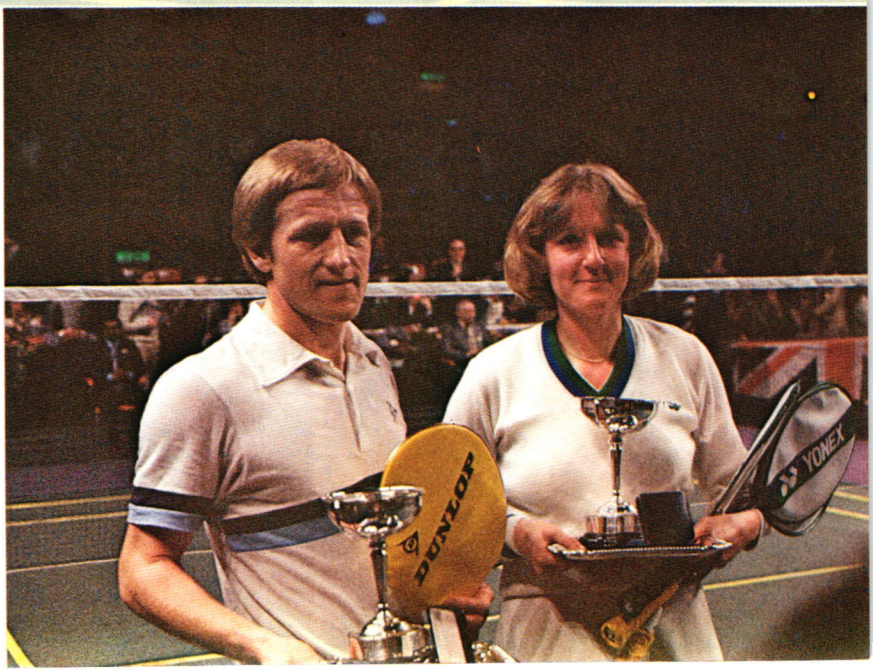
ALL-ENGLAND

MIXED DOUBLES

MR. MIKE TREDGETT

&

MRS. NORA PERRY



写真をお分けします

本誌編集部では、次の要領で写真をお分けいたします。

◆写真の大きさ

Ⓐキャビネ判プリント（約12センチ×16センチ）

Ⓑ４つ切パネル貼り（約25センチ×30センチ）

いずれもモノクロのみ

◆料金

Ⓐキャビネ判プリント＝１枚につき1,000円

Ⓑ４つ切パネル貼り＝１枚につき2,000円

◆お申込み方法

本誌とじ込み振替用紙の通信欄に、写真の大きさと写真番号、枚数を明記のうえ、お近くの郵便局から料金を添えてお申し込みください。送料は編集部で負担します。

◆今月お分けできる写真はこのページのものです。

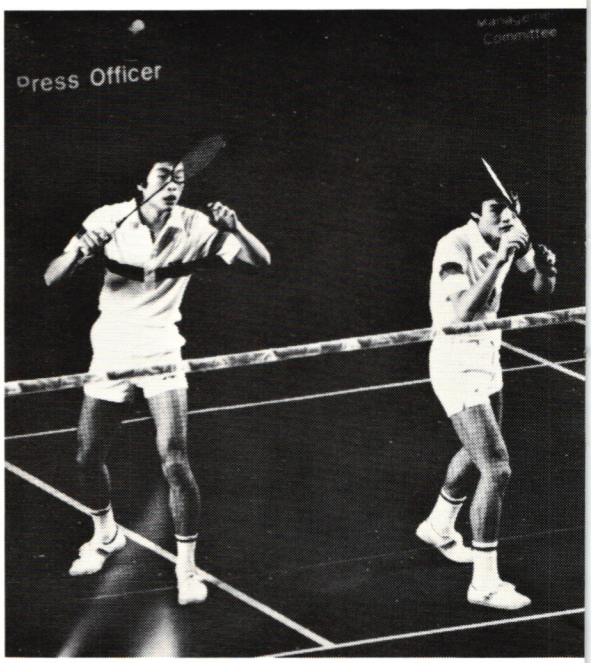
◆シメキリ

昭和53年５月30日（消印有効）

◆発送

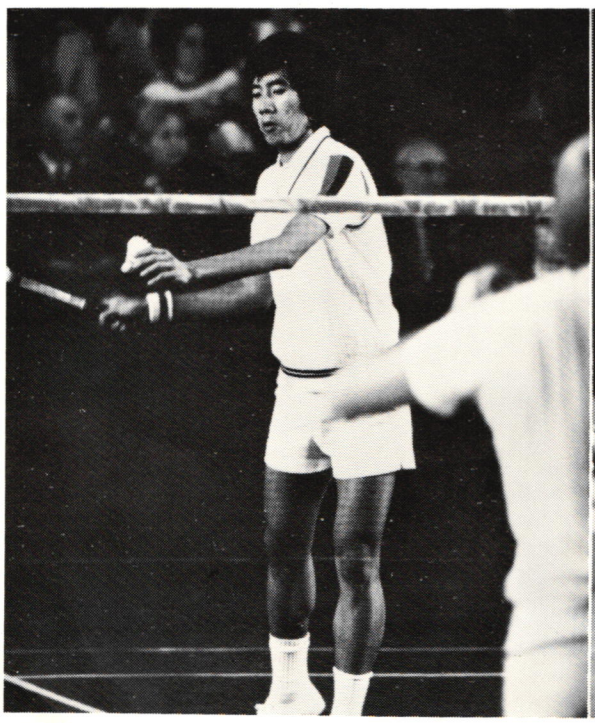
６月20日頃の予定

バドミントン界編集部

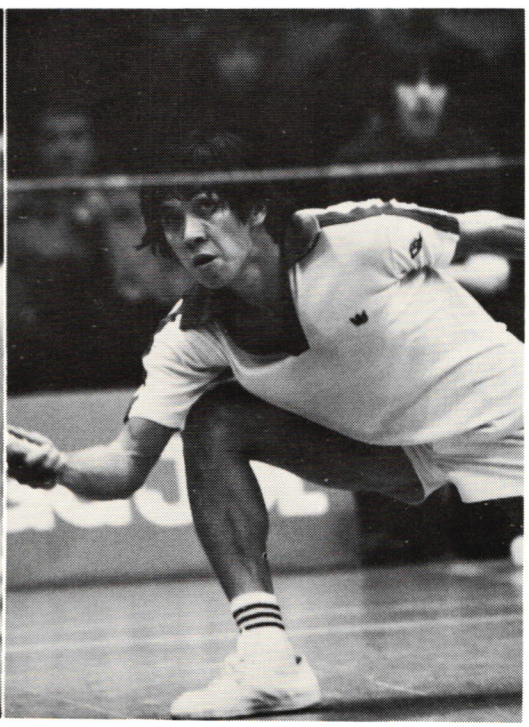


5－1

5－2



5－3



〈トリミングはこれとやや異なることがあります〉

月刊「バドミントン界」5月号
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年5月15日発行（毎月1回15日発行通巻第103号）
発行所・東京都渋谷区神南1丁目1番地1号渋谷記念体育館内
日本バドミントン協会　定価300円



チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが使っているヨネックスのインターナショナル製品を抽選で、10,000名の方にプレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。

ラケット＝B1000からB9300までのラケット。

ウエア＝日本バドミントン協会推せんのすべてのウエア。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。

バッグ＝No.350 No.351 No.352（A・B） No.354 No.355 No.356 No.357 No.359（以上該当商品）



①バッグA（100点）
ラケット、ウエアなどが専用に納まる特製バッグ。
（※写真のうち、ラケット、ウエア、アクセサリーなどは含みません。）



②バッグB（500点）
一流プレイヤーのサイン入り。



③バドミントン・ボット（500個）
シャトルコックスタイルのシャレたポット。

④ラケットB-9100（300本）
サイン入り。

⑤ウォームアップ（100セット）
いま、断然人気のNo.118型特製。

⑥タオル（500本）
特大のスペシャルタオルです。

⑦ラケットケース（3,000枚）
特製サイン入り。

⑧ガット（5,000張）
ヨネックス高級ガット。

●抽選で10,000名の方に左の商品のうち、どれか1点をプレゼント。

これらの商品はイギリス、オランダ、スウェーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法

おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間

昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表

昭和53年6月15日 雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭。なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。

YONEX®